JNSA PESS

Japan Network Security Association

Vol.26
August 2009

イベント開催の報告 21

「インターネット安全教室」......27

事務局お知らせ 30

JNSA年間活動 39

特定非営利活動法人 日本ネットワークセキュリティ協会 NPO Japan Network Security Association

標準化部会長の就任のご挨拶と JNSA への期待

KDDI 株式会社 運用統括本部 情報セキュリティ フェロー JNSA 副会長・標準化部会部会長 中尾 康二



このたび、JNSA副会長、及び標準化部会部会長として就任させていただくことになりましたKDDI株式会社の中尾康二です。JNSAへの参加は今回が初めてですので、このような役職をいただき、十分な活動ができるのかが不安ではありますが、JNSAの皆さんと一緒になって有益・有効な議論ができれば良いと思っています。

近年の情報セキュリティは、単純ではありません。セキュリティを提供する対象(国、インフラ、企業、個人など)によって議論・検討すべき技術、マネジメント、運用、教育などが異なります。以前は、交換する情報を単純に暗号化し、交換する相手と適切な認証を実施すれば、「セキュリティは確保できている」と思われている時代がありました。しかしながら、「リスクベースアプローチのセキュリティ」の導入により、その考え方が大きく変わることになりました。

「リスクベースアプローチのセキュリティ」には2つの大きな視点があります。ひとつは、「何を守るかを明確にすること」であり、他方は、「適切なリスク低減を目標とする」ことです。例えば、企業の情報セキュリティを例にとると、「企業の情報資産」が守るものであり、「その資産の重要性、関連脅威、脆弱性を考慮したリスクを低減させる」ことが目標となっています。この目標を達成するために、ネットワーク技術、システム構築技術、運用技術、物理的管理技術などに関わる様々なセキュリティ技術が必要となり、さらに人材教育の充実、組織体制の確立、資産管理の徹底などのマネジメントを推進するための重要な活動が必須となります。最終的には、本リスクベースアプローチを計画・実施し、その有効性を評価した上で更なる改善を行うプロセスサイクル(PDCA)がもっとも重要とされています。

このような考え方は、一見当たり前のように見えますが、この考え方を定着させるためには多くの時間を要していることも事実です。上記のアプローチを提唱しているご存知の ISMS (情報セキュリティマネジメントシステム)は、英国の国内標準の策定から数えると ISOの国際標準になるまで10年以上の歳月を要しました。しかしながら、セキュリティの検討はこれで終わったわけではありません。逆に、始まりです。多くのセキュリティに 関わる活動の必要性が明確になった反面、それらの活動をどのように進めていけば良いかがよく分からない、いわば混沌とした状況に突入しています。

このような状況に鑑み、JNSAの活動はこの混沌状況を打破する原動力となります。いろいろな業種の専門家が集まるJNSAは、多くの経験をベースに知恵を出し合い、「本当に役に立つ」セキュリティガイドライン、ベストプラクティスなどを導出していくことが可能だと思います。これらの成果をうまく導出することができれば、国内だけでなく、国際的な貢献にも繋がるものと信じます。私も微力ではありますが、JNSAの活動を皆様と一緒に盛り上げ、議論・検討に尽力していきたいと思います。今後とも、皆様のJNSAへの積極的なご参加(特に、標準化部会へのご参加)を何卒よろしくお願い申しあげます。

2008年度の 情報セキュリティ市場調査結果について

調査研究部会 セキュリティ市場調査ワーキンググループリーダー 株式会社情報経済研究所 代表取締役 勝見 勉

1. はじめに

新編成の部会組織のうち、調査研究部会に組み入れられたセキュリティ市場調査ワーキンググループ (WG)では、2008年度の市場調査を実施し、先般報告書を取りまとめた。この調査は経済産業省からの委託事業なので、報告書はまず、経済産業省から公開される。年度末日である3月31日に納品した報告書は、5月18日に経済産業省のwebページに掲載された。

URL は http://www.meti.go.jp/policy/netsecurity/h20fy_marketresearch.html である。

今年度からJNSAのwebサイトにも掲載するべく 承認申請手続きを行い、7月にhttp://www.jnsa.org/ result/2008/surv/mkr/で公開に漕ぎつけた。報告 書全文はこちらでご確認いただきたい。

以下に、同報告書の要点をかいつまんでご説明する。以下の文章は基本的に、同報告書の抜粋、部分的引用、要点とりまとめによって構成している。原典は上記の通りであることをお断りしておく。

2. 調査の概要

我々の調査報告書は、市場規模の数字を算出し、 それを分析・解説する部分と、マクロ・定性的に市場 の動向や新しい動きのトピックをレポートする部分、 また調査結果を海外データやユーザ企業の動向と比 較分析する部分で構成している。

市場規模の算出は、①国内で情報セキュリティに 関する製品やサービスを取り扱っていると見込まれる事業者に対するアンケート調査、②主要事業者に 対する個別ヒアリング調査、および③アンケートで は把握できないデータをWGメンバーが情報収集と 分析によって補完する調査、を組み合わせて実施し ている。また、市販されている各種市場調査レポートも参考にしている。

中核となるアンケート調査は2008年11月から12

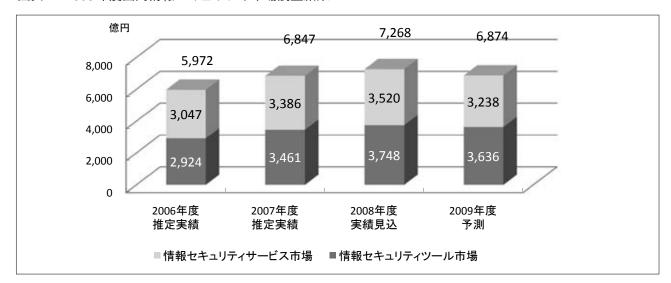
月にかけて行った。郵送留置き方式で、1,141社に対して発送し、140件の回答を得た。回収率は約12%である。また、最終的に算出された市場規模の数字に対して、アンケート回答の数字を単純に足した結果の数字は約29%を占める。残りの数字は②③で埋めることになる。実際、全体市場規模を導き出すのに積み上げる数字は、今回調査では358社分に上った。ちなみに②③の作業の実施時期は2008年12月から2009年2月にかけてである。

セキュリティ関連事業が全社の一部を構成するとか、事業単位としてはシステム構築事業として定義している中でセキュリティ製品やサービスを提供しているケース等、セキュリティ部分の数字を引き出すことが困難な事業者も多い。海外のメーカの多くからは、日本という地域だけの数字は非開示であり出せないという回答をいただく。このような部分を補いつつ、「であろう」数字を導き出し、積み上げていく作業を、我々WGメンバーは根気よく進めていく。そのようにして導き出されるものが、最終的な市場規模の推定値となる。

3. 調査結果の概要

2008年度の調査結果のサマリを、図表1に示す。調査対象基準年度とした2007年度の実績(推定)値で、情報セキュリティツールが3,461億円、情報セキュリティサービスが3,386億円、合計6,847億円という結果となった。前年度に比べて、ツールが18.5%、サービスが11.1%、合計で14.7%、市場が拡大した。また2008年度の実績見込べースでは、ツール、サービス、合計が各々3,748億円、3,520億円、7,268億円となり、初めて7,000億円台に乗せたと見ている。前年度比伸び率は順に、8.3%、4.0%、6.1%であった。

2008年度に関しては、プラス成長という結果になったことに驚かれるかもしれない。市場の実態としては、年度の後半、ちょうど10月ごろから急速に市場が悪化したことは確かなようである。が、年度の前半に関してはかなり力強い動きがあったという



図表1 2008年度国内情報セキュリティ市場調査結果

話も多く聞いており、2007年度の二桁成長を支えた 勢いが持続していたと考えられる。年度後半の状況 については、次のような証言があった。

- ○新規の案件はピタッと止まった。すでに動いていた案件でも新規導入プロジェクトの場合は凍結や暫時様子見となるケースが相次いだ。
- ○更新に際しては、必要ライセンス数を厳密にはじいて、ギリギリ必要最低限の数量レンジに絞り込むケースも多い。
- ○すでに予算がついているものについては、予定通 り実施するという判断のところも多い。
- ○一部には、先行き不透明なことから、まだ多少様子が分かっている今年度(2008年度)に必要な手当てはしてしまおうという判断もあった。たとえば予定されている更新は前倒しで実施したり、複数年契約に切り替えて費用計上を今期に持ってくるというような。

ということで、全体として急ブレーキがかかったことは事実ながら、世の中全部が一斉に動きを止めて固まってしまった、というほどではなかったというのが、情報セキュリティを取り巻く状況だったと考えられる。「セキュリティは削れないコスト」「セキュリティは後回しにはできない」という認識も浸透しているようである。つまり新たに対策を強化するとか

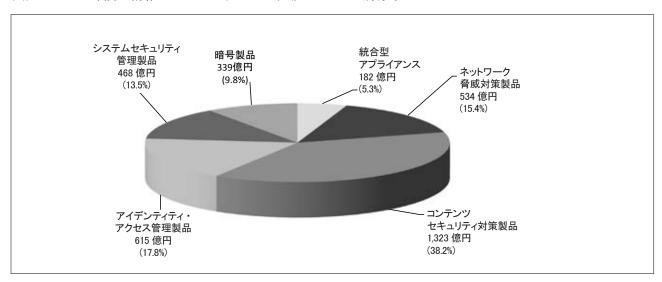
プロジェクトを立ち上げるといった「攻め」までは行かなくても、「守り」の質や量を落とすようなパニック的反応はほとんど見かけなかったということである。これは日本企業の経営における情報セキュリティの位置付けが、重要課題として定着してきたことの表れと見ることができるのではないかと考えている。

2009年度については、この調査における予測作業時点では、まだどうなるかの目処は全く立っていなかった。ヒアリング先のほとんどが何も見えないとの回答であり、相当に厳しくなるとの認識では一致しているものの、どの程度か見通すことはほとんど不可能であった。そんな中でわずかな感触を頼りに数字を置いて行った結果は、市場全体で2008年度比マイナス5.4%、金額で6.874億円となった。2007年度より若干高い数字である。ツールとサービスで見ると、サービス全体の約4割を占める「セキュアシステム構築サービス」の落ち込みが大きくなる(新規システム構築の抑制)影響でサービス市場はマイナス8%となり、2007年度を下回る3,238億円となった。一方ツールの落ち込みは3%にとどまり、2007年度を5%上回る3,636億円規模になるとの結果であった。

図表2 情報セキュリティツール市場のカテゴリ別推移 (金額単位:百万円)

年度別市場規模	2006 年度			2007 年度			2008 年度		2009 年度		
情報セキュリティツール	実績批	計値		実績推計値		実績見込推計値			予測值		
1月学以 ピイユワティ ノール	金額	構成比	金額	構成比	成長率	金額	構成比	成長率	金額	構成比	成長率
統合型アプライアンス	14,487	5.0%	18,183	5.3%	25.5%	19,663	5.2%	8.1%	19,088	5.3%	-2.9%
ネットワーク脅威対策製品	48,455	16.6%	53,383	15.4%	10.2%	55,925	14.9%	4.8%	51,781	14.2%	-7.4%
コンテンツセキュリティ対策製品	116,446	39.8%	132,309	38.2%	13.6%	142,704	38.1%	7.9%	138,721	38.2%	-2.8%
アイデンティティ・アクセス管理製品	48,821	16.7%	61,533	17.8%	26.0%	66,168	17.7%	7.5%	63,079	17.3%	-4.7%
システムセキュリティ管理製品	38,455	13.1%	46,770	13.5%	21.6%	52,153	13.9%	11.5%	51,615	14.2%	-1.0%
暗号製品	25,785	8.8%	33,922	9.8%	31.6%	38,157	10.2%	12.5%	39,296	10.8%	3.0%
セキュリティツール市場合計	292,449	100.0%	346,100	100.0%	18.3%	374,771	100.0%	8.3%	363,581	100.0%	-3.0%

図表3 2007年度の情報セキュリティツール市場のカテゴリ別分布



4. 情報セキュリティツール市場の概観

図表2に情報セキュリティツール市場の今回調査 結果のカテゴリ別推移のデータを、図表3に2007年 度の市場分布図を示す。

2007年度の国内「情報セキュリティツール」市場は、全体としては前年度比18.3%と高い伸びを示した。この市場における最大のカテゴリは「コンテンツセキュリティ対策製品」で、2007年度には1,323億円、構成比にして全体の38.2%を占めた。これに続くのが「アイデンティティ・アクセス管理製品」の615億円で構成比17.8%を占め、次には「ネットワーク脅威対策製品」の534億円・構成比15.4%が続く。これら3カ

テゴリで「情報セキュリティツール」市場全体の72% を占める。

市場の成長率で特に数字が大きかったのは「暗号製品」の31.6%で、「アイデンティティ・アクセス管理製品」26.0%がこれに次ぐ。「システムセキュリティ管理製品」も21.6%と高い伸びを示した。いずれも、内部統制に対応するIT統制や情報流出防止の観点から関心が高まっている分野であり、企業がその方面の対策の充実に注力した結果であると見られる。

「暗号製品」に関しては、ノートパソコンの盗難・紛失やファイル交換ソフトで感染するウイルスによる情報漏えいが相次ぎ、社会的にも問題となっていることから、情報流出の防衛とスキャンダルの防止を意識して導入が急速に進んだ結果と見られる。

「アイデンティティ・アクセス管理製品」は主として内部統制対応の需要が市場を押し上げたものと見られる。特にこの2年ほどでアイデンティティ管理システムへの関心が急速に高まり、導入企業も増加している模様である。

「システムセキュリティ管理製品」も高い成長を示した。内部統制対応と情報漏えい対策の両面で需要が加速した結果と見られる。前者はシステム利用者がネットワーク上で権限外や通常業務パターン外の異常な振る舞いをしていないかを統合監視することや、端末におけるコンプライアンス、更には記録の保全と追跡可能性確保のための統合ログ管理等のニーズとなって表れ、後者は主として端末における権限外のコピーや印刷の防止を目的として「ポリシー管理・設定管理・動作監視制御製品」を導入することにつながる。このような需要がマーケットを押し上げたと見ている。

「統合型アプライアンス」も2007年度は前年度比で25.5%増と大幅な伸びを見せた。特に専門の管理者のいない中堅中小企業向け市場及び大企業の地方拠点向けなどに積極的に受け入れられるようになっていることや、VPNゲートウェイ機能を主眼に統合型アプライアンスを導入するケースも需要を押し上げていると見られる。

「ネットワーク脅威対策製品」の市場規模は、前回調査では2位だったが、今回調査では「アイデンティティ・アクセス管理製品」に抜かれて情報セキュリティツール市場第3位に転落した。その伸び率は2007年度で前年比10.2%増と二桁の伸び率を示したものの、率ではツール市場で最下位であった。ファ

イアウォールやIDS / IPSは傾向的に統合型アプライアンスへの需要のシフトが進んでおり、また普及率が比較的高いことから市場は成熟化の傾向を見せている。ただし、インターネットバックボーンや大規模システムのゲートウェイ等の大容量・高スループットを要求する世界では、ハイエンドのファイアウォールアプライアンスや、高性能ソフトウェアファイアウォールをハイパワーのサーバに搭載した形で使うことが多い。2007年はこの面でネットワーク投資が比較的盛り上がった模様で、成熟市場の割には高い伸び率を示した。

5. 情報セキュリティサービス市場の概観

図表4に情報セキュリティサービス市場の今回調査結果のカテゴリ別推移のデータを、図表5に2007年度の市場分布図を示す。

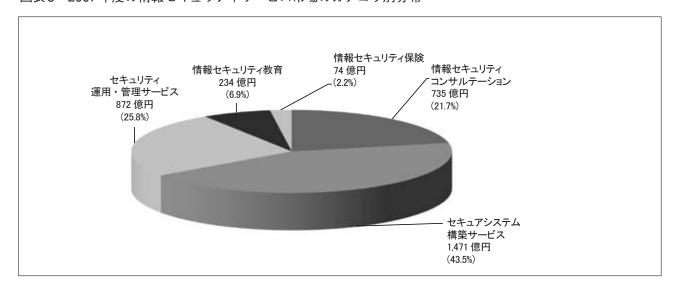
今回の調査結果では、2006年度の「情報セキュリティサービス」市場規模は3,047億円と見積もられ、2007年度には対前年度比成長率11.1%の伸びを示して3,386億円に達したものと推定される。「情報セキュリティ教育」が34.0%と極めて高い伸びを示した他、「セキュリティ運用・管理サービス」が17.7%、「情報セキュリティコンサルテーション」が15.8%と高い成長率を示した。情報セキュリティサービス市場の最大のカテゴリである「セキュアシステム構築サービス」は3.2%、「情報セキュリティ保険」は3.4%と伸び率はわずかであったが、全体として前年度比11.1%のプラス成長となっている。

「情報セキュリティサービス |市場の中で最大のカ

図表4 情報セキュリティサービス市場のカテゴリ別推移 (金額単位:百万円)

		-									
年度別市場規模	2006 年度		2007 年度		2008 年度			2009 年度			
情報セキュリティサービス	実績推	針値	実績推計値実績見込推計値		値	予測值					
1月報 セイユリティ リーヒス	金額	構成比	金額	構成比	成長率	金額	構成比	成長率	金額	構成比	成長率
情報セキュリティコンサルテーション	63,451	20.8%	73,497	21.7%	15.8%	77,708	22.1%	5.7%	71,181	22.0%	-8.4%
セキュアシステム構築サービス	142,585	46.8%	147,130	43.5%	3.2%	149,425	42.5%	1.6%	132,397	40.9%	-11.4%
セキュリティ運用・管理サービス	74,134	24.3%	87,233	25.8%	17.7%	91,777	26.1%	5.2%	89,115	27.5%	-2.9%
情報セキュリティ教育	17,467	5.7%	23,404	6.9%	34.0%	25,461	7.2%	8.8%	23,669	7.3%	-7.0%
情報セキュリティ保険	7,111	2.3%	7,354	2.2%	3.4%	7,625	2.2%	3.7%	7,417	2.3%	-2.7%
セキュリティサービス市場合計	304,748	100.0%	338,618	100.0%	11.1%	351,996	100.0%	4.0%	323,778	100.0%	-8.0%

図表5 2007年度の情報セキュリティサービス市場のカテゴリ別分布



テゴリは「セキュアシステム構築サービス」で、2007年度実績推定値で1,471億円と、情報セキュリティサービス市場全体の43.5%を占めた。このカテゴリは、システムインテグレーション的要素が強いために、市場規模も大きなものになっている。

次に大きなカテゴリは「セキュリティ運用・管理サービス」で、2007年度実績は872億円と推定される。このカテゴリは、ネットワークセキュリティの監視や運用代行サービス(マネージドセキュリティサービスとも呼ばれる)、システムの弱点を専門技術で点検する脆弱性検査やインシデントへの対応を行うプロフェッショナルサービス、そして電子認証サービス等の専門的サービスで構成される。ネットワークセキュリティは特に専門性が要求されることから外部サービスの活用が進んでおり、市場の伸びも高いものとなっている。

金額規模では情報セキュリティサービス市場の中で3番目だが、ここにきて需要が一層高まっているのが「情報セキュリティコンサルテーション」である。需要を拡大した要因としては、個人情報保護法が挙げられる。また2008年度から適用が始まった内部統制報告制度や、事業継続計画への関心の高まりなどから、総合的リスク管理としての情報セキュリティ管理という考え方も浸透が進みつつあり、この面か

ら情報セキュリティコンサルティングの導入利用も 広がっている。

「情報セキュリティ教育」は2007年度実績推定値が234億円に留まり、構成比も6.9%と小さいが、前年度比では34.0%増と、極めて高い伸びを示した。従業員の故意、ミス、不作為、無知等を直接間接の原因とする情報の盗難、紛失、漏えい事故が後を絶たないことから、従業員の知識と意識の底上げが必須であるとの認識が広がってきた。またウイルスやマルウェアの被害を防ぐには脆弱性の理解と対応を各ユーザに知らせる必要も強まっている。このような理由で教育ニーズが強まり、それに対応して教育コンテンツとサービスの提供も活発化してきている。

情報セキュリティ保険は情報セキュリティ対策と 歩みを同じくして拡大してきた市場である。特に、 情報セキュリティ対策が経営課題であるとの認識が 浸透しだした21世紀以降は、市場への定着と需要の 裾野の拡大が進んだと見られる。

6. 国内情報セキュリティ市場の特徴点

上記のように概観できる国内情報セキュリティ市 場だが、いくつかの特徴点が指摘できる。以下、報 告書からポイントだけを拾い出してみると、

1. 市場の成長速度

今回調査における市場の前年度比成長率は、2007年度:14.7%、2008年度:6.1%、2009年度:マイナス5.4%、となった。前年度の調査においては、2007年度の成長率は11.5%、2008年度の成長率は5.7%と見込んでいた。今回の調査においては、2007年度、2008年度共に前回調査で予測したより高い伸びを示したことになる。これはいくつかの要因が複合した結果であるが、とりわけ内部統制の影響によるところが大きいと考えられる。

2.1社当たりの事業規模の小ささ

今回市場規模推計作業の対象としたのは、国内で情報セキュリティのツールまたはサービスを提供する企業合計358社である。2007年度の推定市場規模は6,847億円なので、単純計算をすれば、1社平均の売上高規模は19.1億円となる。これでは、事業採算性を考えた時に、研究開発投資や人材育成等の面に十分に資金を割けない可能性がある。特に製品の開発や検証には前倒しで長期の資金が必要なことから、ベンチャー企業への支援の仕組みの整備は課題ではないだろうか。

3. 供給事業者の業態の分布

本調査では、調査集計分析作業の過程で、調査対象企業の業態区分を導入している。その区分は次の通りである。

- A: 海外メーカまたはその日本法人
- B: 国内のセキュリティツールメーカ
- C: 販売店・商社等を主とした流通機能の 企業
- D: SI·NI機能を有する二次・三次販売店
- E: SIが主たる付加価値の大手システム インテグレータ
- F: コンサルティング企業
- G: セキュリティサービス提供事業者
- H: その他

このうち、ツールの供給源としては「A:海外メーカまたはその日本法人」の果たす役割が大きいが、主として認証製品、セキュリティ管理製品、暗号製品の領域では「B:国内のセキュリティ

ツールメーカ」の存在感も増してきている。そしてツールの場合流通事業者の役割も極めて重要であり、「D: SI・NI機能を有する二次・三次販売店」「E: SIが主たる付加価値の大手システムインテグレータ」の存在感が大きい。

一方サービスに関しては、コンサルティングや 運用管理サービス分野で「F:コンサルティング企 業」「G:セキュリティサービス提供事業者」の活 躍が目立つほかは、ここでも「D:SI・NI機能を有 する二次・三次販売店」「E:SIが主たる付加価値 の大手システムインテグレータ」がツールの供給 に附帯しあるいは付加する形でコンサルティン グ、セキュアシステム構築、教育など様々なサー ビスを提供している。

4. IT投資(費用)と情報セキュリティ投資(費用)の 関係

本調査では、社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA)によるIT関連の出荷額との比較を行っている。JEITAが公表した2007年度のソフトウェア、サービス、ハードウェアの出荷金額を合計すると7兆4,680億円に達する。情報セキュリティ市場は6,847億円であり、ITの合計出荷額に対する比率はその約9.2%に相当する。なお、IT投資にネットワーク機器を加えたものを分母にした試算では、情報セキュリティの比率は7.7%であった。

7. 海外市場との比較

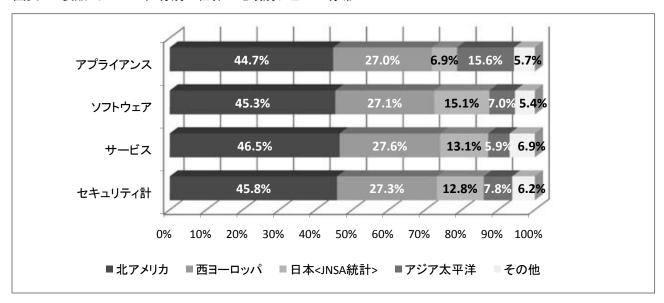
本調査では、IDCから提供を受ける世界の市場データとの比較も毎回試みている。日本以外の市場についてIDCのデータを使い、日本についてはJNSAの算出値を入れて計算した世界の情報セキュリティ市場規模は図表6の通りである。

世界市場の地域別の分布は図表7のようになる。 日本市場は世界全体との比較では、アプライアンス の比率が低く、ソフトウェアの比率が高いことがわ かる。また地域ごとにアプライアンス、ソフトウェア、 サービスの構成比をみると図表8のようになる。こ の図からも日本市場の構成比の特徴が分かると共に、

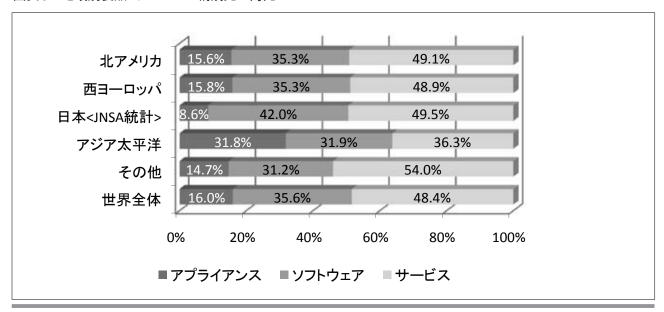
図表6 世界の情報セキュリティ市場規模の推移 (金額単位:百万円)

世界情報セキュリティ市場規模推計	2006	年度		2007 年度		2008 年度			2009 年度		
	実績推	生計値	実績推計値 実績見込推計値		值	予測値					
	金額	構成比	金額	構成比	成長率	金額	構成比	成長率	金額	構成比	成長率
アプライアンス	611,589	13.9%	850,600	16.0%	39.1%	870,571	15.8%	2.3%	950,273	15.5%	9.2%
ソフトウェア	1,629,029	36.9%	1,898,878	35.6%	16.6%	1,955,447	35.5%	2.9%	2,106,680	34.4%	7.7%
ツール合計	2,240,618	50.8%	2,750,478	51.6%	22.8%	2,826,017	51.2%	2.7%	3,056,952	50.0%	8.2%
サービス	2,169,633	49.2%	2,580,146	48.4%	18.9%	2,689,244	48.8%	4.2%	3,061,120	50.0%	13.8%
情報セキュリティ合計	4,410,251	100.0%	5,330,625	100.0%	20.9%	5,515,261	100.0%	3.5%	6,118,073	100.0%	10.9%

図表7 製品・サービス区分別の世界の地域別シェアの分布



図表8 地域別製品・サービスの構成比の対比



アジア太平洋(日本は含まない)はアプライアンスの 比率が圧倒的に高く、サービスは極端に低いという ことも見て取れる。

8. まとめ

報告書の「まとめ」の項では「情報セキュリティは、その必要性の理解を得るのに苦労した時代を経て、経営管理とリスク対応の重要な要素としての認識が急速に高まり、社会的アジェンダとして定着した。」と語っている。一方で「情報セキュリティを取り巻く状況は次のように一層複雑化し、『安全』という意味で『改善』が進んでいるとは言えない状況にある。」と指摘している。

- ネットワーク脅威の一層の深刻化(攻撃の頻度、質的高度化)と複雑化
- ネットワーク犯罪目的の、自己顕示・愉快犯 から経済的利潤への明確な変質
- 組織内部における情報の窃盗、紛失、誤操作など、故意や不作為、不注意に起因する情報漏えいリスクの拡大と深刻化
- 内部統制、事業継続管理、法令遵守といった 経営管理の視点から、情報セキュリティガバ ナンスを目指す情報セキュリティ対策の必要 性とその経営的意味の認知が進展

そして「産官学民の努力を引き続き傾注して、第2次情報セキュリティ基本計画が目指す世界トップクラスのIT国家の実現と、事故前提型の、安心・安全なネットワーク社会の形成が、全社会の参画による取組の中で実現することを期待したい。」と結んでいる。

2008年度の調査を通じて、情報セキュリティに対する認識が企業と社会に広く定着したことを実感した。それが7,000億円という市場規模に反映されているという見方もできると思う。そして我々情報セキュリティ業界は、その市場を通じて社会のセキュリティを支える立場にあり、重い責任を担っていることにも思いが至る。そのことを胸に、より一層お役立ちができるJNSAを構築し発展させていく必要があることを感じる。

最後に、この調査を担い支えてくれたセキュリティ市場調査ワーキンググループのメンバー各位と JNSAの事務局の皆様に謝意を表して、本報告の締めくくりとしたい。

JNSA WG

11

JNSA ワーキンググループ紹介

会員交流部会

会員交流部会 部会長 株式会社アークン 蛭間 久季

2009年度からのJNSA体制変更の一環として、新 たに「会員交流部会」が発足しました。部会の発足の 経緯と、活動目的、今後の活動予定について簡単に ご紹介いたします。

■ 発足の経緯

JNSAは設立から9年目を迎え、部会の枠組みを再 考していく中で、INSAに年会費を払って参加して いただいている会員企業へのサービスをもっと考え る部会があってもいいのではないか、という意見か らこの部会が発足しました。部会名は「会員交流部会」 ですが、「交流」だけではなく会員の方々に満足して いただけるような「会員サービス」も視野に入れてい ろいろな活動を行っていきたいと思っています。



■ 部会の目的

会員交流部会の目的は、JNSAのホームページに 掲載されていますが下記のとおりとなっています。 今まで足りなかった会員向けサービスの部分を充実 させるために、メンバーの知恵を出し合い、勉強会 等様々な企画を考えていきたいと思っています。

「情報セキュリティ業界の健全な発展のために、 会員向けサービスを充実させ、業界の発展に貢 献する。具体的には、勉強会や会員交流会の企画、 情報交換・情報発信などを行う。」

所属WGは、「セキュリティリテラシーベンチマー ク作成WG」と「バイヤーズガイドサイトWG」で、いず れも会員サービスの観点から活動を進めるWGという ことで当部会で活動していただくことになりました。

この部会では、自分たちがJNSAでやりたいこと、 また、JNSAにやって欲しいこと、をどんどん提案 すると同時に、会員からのご希望も取り上げて取り 組んでいきたいと考えています。

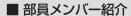
■ 活動予定

6月29日に第1回の部会が開催され、8名の参加者 によって活発な議論が行われました。会員内部の簡 易SNSの作成、会員企業のマッチングの企画などの アイデアも出ましたが、とりあえず行えることとし て、毎月の会員企業向けの勉強会&交流会を行うこ とが決まりました。

JNSA ワーキンググループ紹介

第1回は7月28日にインスパイアー馬場氏とJMC リスクソリューションズ大溝氏に講師をお願いし、「今さら聞けない 情報セキュリティの基本対策」というテーマで行うこととしました。JNSAは敷居が高くて参加しづらい、という意見も聞かれるようなので、情報セキュリティ担当者だけでなくいろいろな人が気軽に参加できる場にしたいと思います。そして会員相互の交流も図れるように勉強会と交流会をセットにし、1000円の会費制で行います。毎月講師を務めるメンバーに負荷がかかるかもしれませんが、持ち回り制で分担して続けていきたいと思います。

また、JNSA会報誌で「会員紹介」のページを設けるというアイデアも出まして、メンバーから早速第1回の執筆者2人を決めました。



現時点での部会メンバーは下記のとおりです。「会 員交流部会に参加したい!」と思われる方はぜひご参 加下さい。

(株)アークン	蛭間 久季
(株)アーク情報システム	島田勝八郎
インスパイアー (株)	馬場・重通
(株)大塚商会	佐藤憲一
(株) JMCリスクソリューションズ	大溝 裕則
シスコシステムズ(同)	久手堅 憲之
(株)情報経済研究所	勝見勉
(株)ディアイティ	安田 直義
トレンドマイクロ(株)	小屋 晋吾
(株)ブリッジ・メタウェア	平田 敬
(株)ブロードバンドセキュリティ	佐藤 友治
(株)ラック	西本 逸郎



出社してから退社するまでのリスク対策 WG

WG リーダー

アイネット・システムズ株式会社 元持 哲郎

■ 概要・目的

西日本支部では中小企業を対象に、情報セキュリティ対策を支援するため「個人情報保護チェックシート」「情報セキュリティチェックシート」と二つのチェックシートを作成し、シートの活用を啓発するためのアンケートやヒアリング活動を通して中小企業の指導者には高い評価を得ることができました。

一方、中小企業の多くは、独力では自社にとって 価値のある情報資産を洗い出し、そのリスクを分析・ 評価できる能力が乏しく、いきなりリスクの対応・ 対策レベルを問うチェックシートだけでは中小企業 の実情に合った情報セキュリティ対策を実践するこ とが困難であることが分かりました。

そこで、当WGでは、中小企業であればどこでも 行っている一般的な業務に着目し、それぞれの業務 に潜む情報セキュリティ上のリスクを特定、分析・ 評価し、どのリスクにどのような姿勢で取り組むの か?どの程度のリスクまで許容するのか?といった 対応・対策までをベストプラクティスとして提示す ることにしました。

■目標

情報セキュリティチェックシートで提示したセキュリティ対策と連携が可能なよう、次の目標を考えています。

- (1) 一般的な中小企業で想定される出社してから 退社するまでに発生する業務の洗い出し
- (2) それぞれの業務に潜む情報セキュリティ上のリスクの特定
- (3) 各リスクに対する、対応・対策の検討

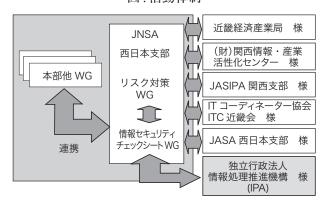
また中小企業版 DSS 化の検討、及びリスクの定量化に関する検討にもチャレンジしたいと考えています。

■ 活動内容

当WGでは、月一回程度のミーティングを実施しております。ミーティングでは成果物を作成するにあたって必要となる「考え方」、「用語」、「成果物のフォーマット」をシナリオベースで整理していますが、議論が白熱しがちであり、月一回のミーティングを補足するかたちで、各メンバーに割り当てた課題を達成するためメーリングリストを活用して、盛んに議論を行っています。

また地域性・企業規模への視点での活動が支部に与えられた命題でもあることから、本部の他のWGとの整合性に配慮し、地域で活動される他の組織とも連携を取りながら活動しています。

図.活動体制





JNSA ワーキンググループ紹介

■ スケジュール

[フェーズ1]

- 方法論の検討 2009 年 3 月~ 2009 年 4 月
- 業務の洗い出し 2009年4月~2009年6月
- リスク分析・評価・対応・対策 2009年6月~2009年9月
- 結果の見直し2009 年 9 月~ 2009 年 10 月
- リスクの定量化方法・DSS 化検討 2009 年 10 月~ 2009 年 12 月
- セミナーでの成果発表 2009 年 11 月
- まとめ 2009年12月~2010年3月

[フェーズ2]

- リスクの定量化 2010年3月以降
- DSS 化 2010 年 3 月以降

■ WG メンバー

浅野 二郎	
宇佐川 道信	パナソニック電工株式会社
久保 寧	富士通関西中部ネットテック株式社
小柴 宏記	株式会社ケーケーシー情報システム
齋藤 聖悟	株式会社インターネットイニシアティブ
嶋倉 文裕	富士通関西中部ネットテック株式会社
堀内 敦	株式会社 OSK
宮下勝彦	ヒューベルサービス株式会社
元持 哲郎	アイネット・システムズ株式会社
井上 陽一	JNSA 顧問·西日本支部長
オブザーバー:	近畿経済産業局地域経済部情報政策課

会員企業ご紹介26

イーデザイン損害保険株式会社

http://www.edsp.co.jp



イーデザイン損保

東京海上グループ

イーデザイン損害保険株式会社(社長 日暮 則武、以下「イーデザイン損保」)は、携帯電話等を通じたモバイル・インターネットのビジネスモデルを使ったお客様対応を目指し、東京海上ホールディングス株式会社と日本電信電話株式会社の子会社であるNTTファイナンス株式会社が共同出資で設立した会社です。

「あなたにぴったりの確かな安心・安全を、リーズナブルに。」をお客様への約束として掲げ、2009年6月13日(土)から、モバイルおよびインターネットサイトを開設し、自動車保険の販売を開始いたしました(インターネットサイト: http://www.edsp.jp、モバイルサイト: https://mb.edsp.jp)。

■モバイル・インターネットを活用したお客様との コミュニケーション

- (1) ケータイ・パソコンなどのモバイル・インターネットを活用 したお客様とのコミュニケーションを展開します。
- (2) ケータイ・パソコンで、見積もり→契約・決済・更新→事 故対応と、お客様にぴったりの自動車保険を自らデザ インいただけるよう、映像なども利用してお客様の利 便性向上を追及します。

■ケータイにおける各種機能

【お見積もりからご契約まで】

コンタクトセンターで見積もった内容をQRコード入り 葉書で送付し、ケータイで申し込むという業界初の 「『さくっ』と契約」、「『わかる』証券」、更新手続きを 完結できる業界初「『さくっ』と更新」などのサービス をご利用いただけます。

万が一の事故の際には、ケータイからモバイルサイト にアクセスして保険金支払報告も含め進捗状況の確認 や、事故の相談などができます。

【各種おすすめコンテンツ (無料)】

燃費の節約を支援する「燃費の達人」の他、オリジナル 待ち受け画面の作成や心理テスト・ゲームなど様々な無 料のおたのしみコンテンツが充実しています。







カウントダウン

おもいでアルバム

わかる! 電池メータ

■パソコンにおける特徴

お店にいるような感覚でWEB上のアドバイザーが動画を使って保険を説明するわかる見積もり等、パソコンにおいてもお客様にとっての分かりやすさを追求しました。

イーデザイン損保の特長

「お客様の声に応えるために。 イーデザイン損保の3つの強み」



保険料を抑えたい人にも、こだわりの補償が欲しい人にも、 「これならいいね」と言っていただくために。

東京海上グループの経験と実績を注ぎ込んでつくった、新しい自動車保険です。

強み 2 ぴったりの保険を、カンタンにデザイン お見積り方法やプランがいろいろ選べるから、一人ひとりにぴったりの保険がデザインできます。

強み 3 国内損保大手の経験と実績 東京海上グループだから、「知っていること」「できること」が違います。

京セラコミュニケーションシステム株式会社

http://www.kccs.co.jp/

THE NEW VALUE FRONTIER



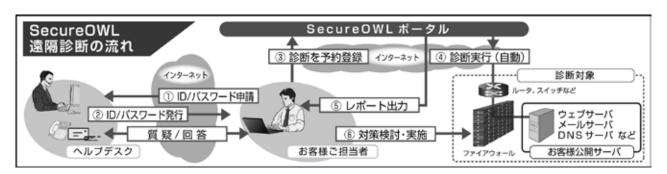
京セラコミュニケーションシステム(以下KCCS)では、お客様のプラットフォームからアプリケーションレイヤまでのセキュリティソリューションを展開しています。その中でもプラットフォームのセキュリティはセキュリティの基礎となる部分であり特に重要と考えています。KCCSでは、このニーズにお応えするDo It Yourself型のネットワーク脆弱性診断サービス『SecureOWL』を2007年より展開しています。

ネットワーク脆弱性診断サービス『SecureOWL』

従来のネットワーク脆弱性診断には①高コスト (そのため何度もできない)、②難しい (レポートが専門的、英語)、③負荷・ 負担がかかる (サーバなどに悪影響を与える、準備や調整が必要)、④設定・操作が複雑などの問題点がありました。

『SecureOWL』は、診断対象に負荷をかけずに7,200種類以上の最新脆弱性を診断するnCircle Network Security社の 「IP360」をベースとしたDo It Yourself型のネットワーク脆弱性診断サービスです。 『SecureOWL』は、この「IP360」をデータセンターに設置し共同利用することでコストを低減させ、さらに専門知識のない方でも簡単にWEBから診断予約・レポート 閲覧ができるようにしたポータルサイトです。

本サービスは既に900ユーザ以上への提供実績があります。低コストで簡単に利用できることから、多くのお客様から高いご評価をいただいています。『SecureOWL』の最大の特長は、何度でも、都合のよい日時に診断が行える点です。システムの更新時や、新しい脆弱性が出現した時、脆弱性対処後にすぐに診断を行うことでセキュリティリスクやその回避方法、対処状況などを確認できます。また、『SecureOWL』では操作方法や診断結果に対するお問い合わせをサポートするためにヘルプデスクを設けています。



お客様からの評価

「今までは、毎年の外部監査の際に脆弱性診断も委託していました。しかし、実施までには事務手続きに数ヶ月を要します。必要な時に診断ができる点が大変有難いサービスです。また、この診断方法は擬似攻撃を行わないため、サーバやネットワークに負荷をかけることがなく、SEの立会いも不要です。データセンターなどに預けてあるシステムでも安全にリモートから診断できるので安心して利用しています。」「このサービスは診断で見つかった脆弱性の対策後に、適切な対策が実施されたかどうか確認するための再診断を何度でもできるので重宝しています。」

無料お試しサービスお申し込み

「SecureOWL」を1ヶ月無料でお試しいただけます。以下のURLよりお申し込みを受け付けておりますので、是非ご利用ください。

https://www.kccs.co.jp/contacts/trial_secure_owl/index.html

お問い合わせ先

京セラコミュニケーションシステム株式会社 カスタマーサポートセンター

フリーコール 0120-911-901

携帯電話・PHS・IP 電話など 050-3161-3924 17:00 以降のお問い合わせは自動応答になります。

Web からのお問い合わせは 24 時間受付けております。

 $URL \quad http://www.kccs.co.jp/products/secure_owl/index.html$

E-mail kccs-support@kccs.co.jp

日本サード・パーティ株式会社

http://www.jtp.co.jp/





日本サード・パーティ(JTP)は、海外ITメーカに対する日本とアジアパシフィック市場におけるテクニカル・サポートのアウトソーサとして戦略的パートナー契約を締結しています。85社を超える海外ITメーカの技術部門の役割を担い、コンサルティングやビフォア・サービスからアフター・サービスまでさまざまなサービスレイヤーをBPOで提供しています。特に、セキュリティ分野においては、国際標準でもあるCertified Ethical Hacker (CEH) 認定資格者を115名有し様々なセキュリティ・プロフェッショナルサービスを提供しています。ハッカー以上の技術力に加え、絶対に悪事を働かないという高い倫理観と道徳心を兼ね備えたエンジニアによって、OSや主なネットワークサービスの脆弱性を検査・診断します。診断の結果、脆弱ポイントが発見されれば、コンサルティングを通じて適切な対策の立案、その実施効果測定、改善というセキュリティプロセス管理によってシステムを脅威から守ります。

エシカル・ハッカー育成各種教育コース

Ethical Hacking & Measures 5日間コース

EC-Council社が提供している、ライセンス取得コースです。エシカル・ハッカー業務における具体的な作業内容について、Labを含めてご紹介します。Labでは実際にハッキングの実践も行います。

Certified Ethical Hacker (CEH) 直前対策 2日間コース

Certified Ethical Hacker (CEH) 試験の模擬問題を使用した直前対策コースです。前提知識として、セキュリティスキル、ネットワークスキル、ハッキングスキルをお持ちの方が対象です。実際の試験は英語で提供されるため、英文の設問に関する解読ポイントについてもご紹介いたします。

Super Cruise Course 4日間コース

Certified Ethical Hacker (CEH) の出題範囲における、技術的な知識を習得します。試験に出題される内容はもちろん、業務で実施する必要がある、各種ハッキング手法についても詳しくご紹介します。講義の中で、CEH試験対策のポイントについても明確にするため、CEHライセンスの取得にも役立ちます。

セキュリティプロフェッショナル・アセスメント 90分

セキュリティプロフェッショナルとして必要な技術知識を30項目にわたって分析します。また、設問には倫理観の問題も含まれています。この分析結果から、セキュリティプロフェッショナルとして充足しなければならない各種技術分野を習得するための対策をあわせてレポートすることも可能です。

各種セキュリティ・サービス

- 脆弱性診断サービス
- コンサルティングサービス
- プロセス管理サービス
- 構築・導入・運用サービス
- 監視サービス
- ▶レーナ育成サービス

お問い合わせ先

日本サード・パーティ株式会社 〒 108-6013 東京都港区港南 2-15-1 品川インターシティ A 棟 TEL 03-3524-0511 FAX 03-3524-5010 E-Mail itkansa@jtp.co.jp URL http://www.jtp.co.jp

株式会社 MONET

http://www.monetz.com



株式会社MONETは、「事実の認識に基づき、お客様ごとに最適なソリューションをご提供する」為に、ソリューションプロバイダー事業と、コンサルティングサービス事業を展開しております。ソリューションプロバイダー事業部では、おもに海外の先進的ITセキュリティ製品を取り扱っております。一方、コンサルティングサービス事業部では評価、診断、監査支援およびプロセス分析サービスを提供しております。

ITセキュリティ 2商品

未知の脅威をも防御する唯一の監視ソフトウェア

HUNTSMAN

■堅牢なセキュリティと統合ログ管理の実現

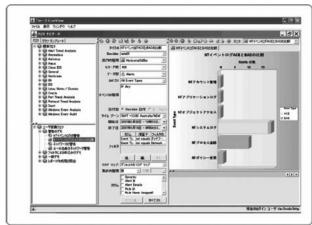
HUNTSMANは、単なるログ管理ツールではありません。 世界でも稀な「ふるまいによる異常検知」の実用化により、 従来の「シグネチャ」をベースとしたセキュリティシステムで は為し得なかった、ゼロデイアタックや予測不能な情報漏え いに対する防御を可能にします。同時に、統合的なログ管 理を実現し、運用コストの削減、内部統制や法規制への対 応に寄与します。

■高度なセキュリティシステムとして

- 予期できない「未知の脅威」を防御:B.A.D.
- 内部漏洩など 「内なる脅威」 を防御: A.C.E.
- 情報、物理セキュリティを一元でリアルタイム監視

■統合ログ管理システムとして

- 散在するあらゆるログを収集、統合管理
- 煩雑化するログ管理を容易に、運用時間、コストを削減
- J-SOXなどの内部統制、監査への対応



A.C.E.とB.A.D.による実際の警告表示

サーバ暗号化ソフトウェア

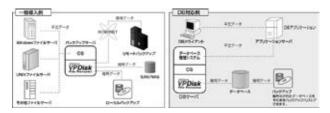


■DB、ログデータ、メールアーカイブも暗号化

VPDiskは、システム管理者権限から独立したセキュリティを実現するサーバのファイル暗号化ソフト。アドオンすることで既存システムに暗号化機能を追加し、かつアプリケーションからの透過的(トランスペアレント)な使用が可能です。既存のアプリケーションの変更なしに、暗号化の機能を加えることが可能。またシステムの管理・運用に使用するファイルやディレクトリに対して、不正な書き換えや削除から保護する機能も持っています。

■適用範囲

- 一般アプリケーションへの暗号化機能追加
- データベースの暗号化 (オラクル、MS SQLサーバ、PostgreSQL、MySQL等)
- ログデータの保護(各種アプリケーション、Svsログ等)
- メールアーカイブの保護(postfix、gmail、sendmail等)
- ホスティングサービスのセキュリティ強化
- 画像データの暗号化
- テキストデータの暗号化(csv、xml等)
- ファイルサーバの暗号化(webDAV、samba、NFS、FTP等)



お問い合わせ先

(株) MONET ソリューション事業部

TEL: 03-5256-5171 FAX: 03-5256-5172

Email: sales@monetz.com

JNSA Information

19

JNSA 会員企業のサービス・製品・イベント情報

■サービス情報■

○セキュリティオペレーションセンター[G-SOC]のご紹介

株式会社ブロードバンドセキュリティは、インターネットに接続されているセキュリティシステムを統合監視するセキュリティオペレーションセンター「G-SOC」のサービスを開始いたしました。ネットワークやサーバといったシステムリソースの稼動監視・運用に加え、セキュリティデバイスの監視・運用・防御が可能となり、お客様のシステム全般のトータル監視・運用とセキュリティ運用をワンストップで御提供する事を実現いたしました。

【サービス情報詳細】

http://www.bbsec.co.jp/solution/mss.html

◆お問い合わせ先◆

株式会社ブロードバンドセキュリティ

TEL: 03-5338-7430 E-mail: sales@BBSec.co.jp

■製品情報■

○スパム対策のパイオニア『IronPort Cシリーズ』

ジェイズ・コミュニケーションが取り扱っているスパム対策 アプライアンス『IronPort Cシリーズ』はIPレピュテーション、 Domain Key、VOF (Virus Outbreak Filters: ウィルス拡散 防止フィルター)、コンテンツフィルターなど、最新のテクノロジー を駆使し、企業の電子メールシステムを保護。不要なメールは 事前にブロックします!

【製品情報詳細】

http://jscom.jp/products/ironport

◆お問い合わせ先◆

ジェイズ·コミュニケーション株式会社 担当:営業本部 第二営業部 吉岡

TEL: 03-6222-5858 FAX: 03-6222-5855

E-mail: yoshioka@jscom.co.jp

○サンのアイデンティティ管理ソリューション

市場をリードするサンの柔軟なアイデンティティ管理ソリューション製品群は、企業全体およびエクストラネット上でのアイデンティティ情報の管理、保護、保管、検証、共有を支援します。サンの提供するアイデンティティ管理ソリューション製品を導入することで、お客様はセキュリティの維持、コンプライアンスの継続、リスクとコストの低減を実現できます。

【製品情報詳細】

http://jp.sun.com/identity

◆お問い合わせ先◆

サン コンタクトセンター E-mail: suncontact-jp@sun.com フリーダイヤル 0120-33-9096 携帯からの場合 03-5717-5033

○スパム対策の決定版『SpamSniper』

スパムメール遮断ソリューションのSpamSniperは日本語/外国語を問わず高い遮断率と低い誤検知率を誇り、豊富な機能を持つアプライアンス製品です。SMTP攻撃防御、ウィルスメール遮断、スパムメール遮断、情報漏えい防止4つのリスクに総合的な対策を1台で担うことができます。ドメインやグループ毎のフィルタ設定可能、詳細で効率的な統計やメール管理機能を提供します。

【製品情報詳細】

http://www1.arkinfo.jp/spamsniper/

◆お問い合わせ先◆

株式会社アーク情報システム CIS営業部 E-mail: SpamSniper@ark-info-sys.co.jp TEL: 03-3234-9232

JNSA 会員企業情報

JNSA 会員企業のサービス・製品・イベント情報

OCheck Point Media Encryption

Check Point Endpoint Security 「Media Encryption」は、1製品でUSBメモリの暗号化からポート制御まで情報漏洩対策を簡単に行なえます。

- ①許可された人のみUSBメモリが利用可能。
- ②私物のUSBメモリは利用できません。
- ③データは全てパスワード認証付きで自動暗号化されます。
- ④USBメモリのデータスキャン機能搭載。
- ⑤利用状況をログで確認できます。

【製品情報詳細】

http://www.tokyo.metro.co.jp/security/endpoint/me.html

◆お問い合わせ先◆

株式会社 メトロ

セキュリティソリューション事業部 Endpoint Security 担当 TEL: 03-5789-1022

E-mail: endpoint@tokyo.metro.co.jp

○人事情報とActive Directoryの橋渡し『BRidgeWARE』

・Active Directory のメンテナンスを自動化

ユーザ情報や組織情報・グループ情報を人事情報に合わせた 自動更新が可能です。運用の手間を削減でき業務効率化の 実現、登録ミスがなくなります。

・不正アクセス防止が可能

人事発令や職制変更と同時にActive Directoryを自動更新することができ、ゴーストユーザを発生させません。

・共有フォルダの効率運用が可能

新しい部門の部門フォルダの作成や、退職した社員の個人 フォルダの削除を自動化できます。

・標準価格

1ユーザ/1500円

保守 (1ユーザ/年) / 250円

【製品情報詳細】

http://www.ssl.fujitsu.com/products/network/netproducts/bridgeware/

◆お問い合わせ先◆

株式会社 富士通ソーシアルサイエンスラボラトリマーケティング本部ソリューション推進部

TEL: 044-739-1251

E-mail: ssl-info@cs.jp.fujitsu.com

○業界初! USBメモリ暗号化ソフト 「InterSafe SecureDevice」

InterSafe SecureDevice は、汎用 USB メモリを暗号化 USB メモリに変換するソフトウェアです。 USB メモリからの情報漏洩を強固に防止いたします。

暗号化されたUSBメモリを登録されていないPCへ接続した際、USBメモリ内に保存されているデータの編集・保存は可能ですが、PCへのデータ保存を制御、情報漏洩を防止します。また、USBメモリ内へのデータ侵入も制御し、ウィルス感染を防止します。

【製品情報詳細】

http://www.alsi.co.jp/security/sd/index.html

◆お問い合わせ先◆

アルプス システム インテグレーション株式会社

TEL: 03-5499-1331 E-mail: ssg@alsi.co.jp

Seminar Report

21

2008 年度 JNSA 活動報告会

NPO日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)では、2009年度から部会組織を大幅に改定しました。活動内容に合わせた組織づくりをすることにより、具体的な活動の活性化を図ることを目的にしています。詳細は別途説明をご覧いただければと存じますが、今回の活動報告会から、新しい部会構成に倣う形でプログラムが構成されています。JNSAの活動内容も多彩になってきていて、今までの良いところを継承しながら、新しい状況にも対応していくことが求められています。この意味からも今後のさらなる活発な活動が期待されます。

新しい部会構成は、社会活動部会、調査研究部会、標準化部会、教育部会、会員交流部会、U40部会、 西日本支部、それに情報セキュリティ教育事業者連絡会(ISEPA)、日本セキュリティオペレーション事業 者協議会 (ISOG-J) からなります。ISEPAとISOG-Jは、JNSAの傘下にある独立団体ですが、部会と同じ ような位置づけで活動していて、今回の活動報告会でも発表をしています。

以下に、発表内容を簡単にご紹介します。



トラック 1

(教育部会、会員交流部会、ISOG-J、ISEPA)

教育部会

◆ 情報セキュリティ基本教育実証WG

WGリーダーの平山敏弘氏(日本アイ・ビー・エム) が「情報セキュリティ基本教育普及への取り組み」というテーマで発表されました。このWGは、岡山理科大学の遠隔授業のトライアルを行ってきており、「情報セキュリティ教育の指導者向け手引書(2007年版)」

などの報告書を作っています。これをもとに、2007、2008年度と岡山理科大学の1単位の講義を行うようになり、2009年度からは2単位の正式な講座として講義を行っています。特に、情報セキュリティ関係の講師が東京に偏在していることを踏まえ、地域差を超えた教育の機会均等や質の向上などを実現する方法論を探っています。岡山理科大学での取り組みは、当地の新聞などのメディアにも取り上げられ、大き

イベント開催の報告

な反響を呼んでいますが、今後は他の教育機関や、 地域の社会人教育への発展を考えているそうです。

会員交流部会

◆ セキュリティリテラシーベンチマークWG

大溝裕則氏(JMCリスクソリューションズ)がリーダをされていて、昨年度までは教育部会に割り当てられていましたが、WG発足当初とはWGの役割が変わってきており、今後は実際に作った問題の見直し・追加や、有償版(プレミアムサイト)の普及促進に主体を置くということで、部会が移動されました。プレミアムサイトでは、管理者向けの操作画面に工夫がされ、今までの利用者の要望を反映してより効果的な教育ツールとして利用できるようなシステムとなっています。組織の利用も増えてきているので、今年度はより多くの方に利用していただくと共に、プレミアムサイトの普及促進に力を入れていく予定です。

日本セキュリティオペレーション事業者協議会 (ISOG-J)

武智洋氏(ラック)が代表を務めています。セキュリティオペレーションセンター(SOC)などのメンバーが、自分たちの専門的問題について相互に相談や議論したりするための場が欲しい、その結果作業レベルの向上やスキルの向上を通して、安全安心な

インターネット環境を実現したい、という現場から の声を反映して設立されました。

「セキュリティオペレーション事業の現状問題点と 改善課題について」というテーマで発表されました。 セキュリティサービスの定義やどのようなサービス が存在しているかのサービスマップを整理し、オペ レーション技術の向上を実現するための勉強会や、 メンバー同士の現状を紹介しあう場を作り、事業形 態の違いによるオペレーションの変化や、社会的認 知度の向上を図るべく、他団体との協力・連携など も進めてきているそうです。

情報セキュリティ教育事業者連絡会(ISEPA)

与儀大輔氏が代表を務めています。情報セキュリティ教育や資格認定制度などを運営している教育関係の事業者が中心となって活動しています。いろいろな事業者間の教育体系や資格制度の相互関係の整理や、セキュリティ人材の安定的な育成を通した社会貢献、セキュリティ業界の魅力を高める環境を作ることが大きな目標となっています。発表は、広報WGリーダの勝見勉氏が行いました。

昨年度は、情報セキュリティ人財アーキテクチャという概念について議論されたそうです。「人財」は、組織における「人」は、「技術」「特許」などと同じ「知的財産」であるべきだろう、ということから付けられ



たとのことです。あるべき姿を実現するための枠組みとして「アーキテクチャ」を検討してきたそうです。 このような議論をベースにして、セキュリティ職と は何か、どのような職務内容なのかを整理し、日本 市場に現存するセキュリティ関連教育・資格を職種 毎に特定していく作業を行っています。まず組織レ ベルを整理し、利用・運用・評価の方法論をまとめ ているそうです。

トラック 2

(調査研究部会、標準化部会、西日本支部、U40 部会)

調査研究部会

◆ セキュリティ被害調査WG

大谷尚通氏(NTTデータ)がリーダをされています。JNSAの報告書類の中でも最も引用が多いのが「情報セキュリティインシデント調査報告書」です。この最新版の2008年の分析結果が報告されました。解析の内容として、「個人情報漏えいの現状から見える対策の弱点」という観点で報告がされ、具体的な例を示しながら、今までの経過と今後の動向について議論がされました。WGの目的は、情報セキュリティインシデントにおける被害の定量化と、適切な情報セキュリティに対する投資判断、投資対効果の提示をおこなうことで、インシデントに対する考え方をもっと広く議論する場を作りたいとのことでした。

2008年の特徴は、誤操作と管理ミスに分類されている原因が多いのですが、上位4項目程度は年度によらず常に多く、人間系の問題が実際は多数派であることが伺われます。また、2008年は、公表されたインシデント件数は、統計を取りだしてから最高値となっていますが、実際に漏えいしたと思われる人数は2004年以来最低になっています。2005年の個人情報保護法施行後は、漏えい人数が増え続けていたのですが、2008年は大きな情報漏えい事故が1件もなかったことを受けて、漏えい人数も大きく減少しました。これに伴い、想定損害賠償額も小さくくないですが、大規模な情報漏えい事故を起こさないための対策が各組織で進んできたのかもしれません。これも、細かな分析をしてみるとすべてがうまくいっているわけではなさそうなので、まだまだ

継続的な対策が必要だと言えそうだとのことです。 今後は、個人情報漏えい以外の情報セキュリティインシデントの被害額算定モデルの作成と現状調査を 行っていくそうです。

◆ 市場調査WG

勝見勉氏(情報経済研究所)がリーダをされています。 2006年度から経済産業省の委託事業として活動して きており、手探り状態だった情報セキュリティ産業 の市場規模を定量化する試みを実現してきています。

「2008年度セキュリティ市場調査結果について」というテーマで、これまでの経緯を含め、国内の情報セキュリティ市場を分析している内容は、各方面で参考になるものと思われます。2008年度の国内情報セキュリティ市場は約7000億円程度ということです。2009年度の予想としては、ボットネットなどのDDoS攻撃や、SaaSやクラウド環境対応のセキュリティ対策が増加すること、また、アウトソーシングによる運用・管理サービスが増加することが考えられるそうです。

標準化部会

◆ 内部統制におけるアイデンティティ管理WG

宮川晃一氏(グローバルセキュリティエキスパート)がリーダをされています。WGの目的は、ITの全般統制として、ITセキュリティに関する対応の必然性について議論することを通して、内部統制とアイデンティティ管理の関連を整理し、啓発および導入指針の提示による普及促進、市場活性化することです。

特にID管理(アイデンティティマネージメント)分野については、IdM製品ベンダーからの導入事例をヒアリングするなど、情報収集と共有にも努めているとのことでした。

「内部統制におけるアイデンティティ管理とは」という報告では、金融業や製造業でのケーススタディを通して、問題点の捉え方や考え方、解決の糸口を考える方法論をまとめていました。この成果を活かし、2009年度の活動は、WGの名称を「セキュリティにおけるアイデンティティ管理WG」と変更し、ロールマネジメント、ID管理技術最新動向、日本版SOX1年目の監査動向などをテーマとして活動するそうです。

◆ 情報セキュリティ対策マップWG

奥原雅之氏(富士通)がリーダをされていますが、発表は長谷川喜也氏(富士通)と一緒に行われました。「情報セキュリティ対策マップ」をテーマにした作業は、今までもISO/IEC 27002、NIST SP800-53、情報セキュリティ管理基準、ベンダーのセキュリティソリューションリスト等々、数々ありますが、(1)脅威/リスクからセキュリティ対策へマッピングするもの、(2)分類カテゴリを細分化してセキュリティ対策へマッピングするものなどに分けられます。しかし、実際のセキュリティ対策実施の有効性・網羅性を記述するのにはどうにも力不足だという感覚があり、もう少し検討してみたいという背景があるようです。

このような現状認識から、組織全体の情報セキュリティ対策の状況を確認することができる「情報セキュリティ対策マップ」のコンセプトを作り、これを作成するための手法や記述モデルを示し、実例としての汎用的な標準情報セキュリティ対策マップ案を試作してみることにあるとのことです。このため、まず初めに、マップの「目的」を決めるために、「誰が」「何のために」使うか整理し、マップの「目的」として「投資判断」に使うマップから検討する予定だそうです。

◆ 情報セキュリティランキングWG

佐野智己氏(凸版印刷)がリーダをされていましたが、WG自体は2008年度で活動を休止しました。このため、WG有志代表として奥原雅之氏が「情報セキュリティランキングWG最終活動報告」として発表されました。もともとの活動目的は、情報開示の充実度や取り組み姿勢、社会貢献活動などにも着目した、JNSA版情報セキュリティランキングを定期的に公表することにありました。例えば、上位ランキング企業がどういう取り組みをしているかを把握するとともに、真摯に取り組む企業を讃える仕組みとして定着を目指したのです。

これまでに、評価用チェックシートの策定はほぼ完了し、試験的評価の実施を通して実用性の確認はWG内で終わっています。同一条件による多数の企業の評価・比較を行ったランキングの公表は未完ですが、現状のチェックシートの公開をもって、ひとまず活動終了とする予定です。

◆ 国際化活動バックアップWG

標準化部会の新設に伴い、中核的な活動を行う国際化活動バックアップWGができました。リーダーは中尾康二氏(KDDI)ですが、この発表は、下村正洋氏(JNSA事務局長)から行われました。

具体的な活動としては、国際標準化に関する勉強会を行っていますが、今後は、日本から提案する標準化案についての検討も行われることを目標としているそうです。ISO/IEC/JTC1、ITU-T、IETF、IEEE、ETSI、等々で活動されている参加メンバーの情報共有を進めることも大きな効果が期待されます。

西日本支部

◆ 出社してから退社するまでのリスク対策WG

昼休みを挟んで、元持哲郎氏 (アイネット・システムズ) がリーダをされている新しいWGの紹介がありました。2004年に開始した前身の「中小企業向け個人情報保護WG」の活動をステップアップし、「情報セ

キュリティチェックシート」を活用したリスク分析・評価・対応・対策方法を検討することになっています。 目標として、中小企業で想定される一般的な業務を 洗い出し、それぞれの業務に潜む情報セキュリティ 上のリスクを特定し、各リスクに対する対応・対策 を検討することだそうです。

「出社してから退社するまでのリスク対策」という キーワードで、チェックシートからリスク対策へ移 行する手段として、業務からのアプローチと資産管 理台帳からのアプローチを提唱しています。また、 中小企業向けDSS (Data、Security、Standard) 化の 検討も議論されているそうです。

◆ 中小企業向け指導者育成事業・実施報告

2008年度経済産業省委託事業として実施した報告 書作成の内容について、持田啓司氏(大塚商会)から 説明されました。委託事業の趣旨は、「中小企業にお ける対策の取組は、大企業と比較して遅れが見られ、 大企業と中小企業の情報セキュリティ対策実施率の 差異は拡大している。また、昨今、大企業が業務を 委託している中小企業の情報はキュリティ対策レ べルの向上を図る。」というものです。

中小企業情報セキュリティ対策促進事業という趣旨もあり、指導者育成という視点からの実施でしたが、いろいろな課題も見えてきたとのことで、今後の継続活動についての知見も得られたそうです。特に関係者全員が主体的に、継続して活動することが重要ということです。

U40 部会

U40部会は、2007年9月に発足した、40歳以下のメンバーからなる部会です。部会長の嘉津義明氏(シマンテック)から発表されました。各方面の第一線の方々を招いた勉強会を継続して実施していることと、「ラボネット」と呼ばれるマシンとネットワーク環境を自由に使って「実験」をしてみようという活動がメ

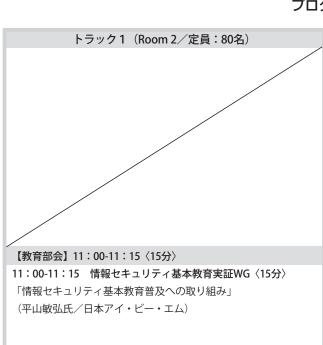
インになっています。この環境は、JNSA会員にも貸し出され、いろいろな実験に活用されることになっているそうです。IPv6のセキュリティ実証実験にも対応する予定とのことです。その他アイディア募集中とのことなので、ぜひご意見をお寄せください。

以上、2008年度のJNSA活動報告会の概要をご紹介しました。JNSAも部会構成を一新し、新しい活動をこれまで以上に積極的に取り込んでいきたいと思いますので、ぜひご協力のほどよろしくお願いいたします。

(やすだなお)

イベント開催の報告

プログラム



【会員交流部会】11:30-12:00〈30分〉

11:30-12:00 SLB-WG〈30分〉

「セキュリティ理解度チェック・プレミアム活用法」 (大溝裕則氏/JMCリスクソリューションズ)

トラック2(Room 3 + Room 4/定員: 150名)

【調査研究部会】10:00-11:00〈60分〉

10:00-10:30 セキュリティ被害調査WG〈30分〉

「2008年 個人情報漏えいインシデント分析結果報告~個人情報漏えいの現状から見える対策の弱点~」 (大谷尚通氏/NTTデータ)

10:30-11:00 市場調査WG〈30分〉

「2008年度セキュリティ市場調査結果について」 (勝見 勉氏/情報経済研究所)

【標準化部会】11:10-12:25〈75分〉

11:10-11:25 内部統制におけるアイデンティティ管理WG〈15分〉「内部統制におけるアイデンティティ管理とは~2008年度内部統制におけるアイデンティティ管理WG成果報告~」 (宮川晃一氏/グローバルセキュリティエキスパート)

11:25-11:40 情報セキュリティ対策マップWG〈15分〉 「情報セキュリティ対策マップの検討について(中間報告)」 (奥原雅之氏、長谷川喜也氏/富士通)

11:40-12:10 情報セキュリティランキングWG〈30分〉 「情報セキュリティランキングWG 最終活動報告」 (奥原雅之氏(WG有志代表)/富士通)

12:10-12:25 国際化活動バックアップWG〈15分〉 「国際化活動バックアップWG 発足報告」 (下村正洋氏/JNSA事務局長)

12:00~13:30 昼休み

【日本セキュリティオペレーション事業者協議会(ISOG-J)】 13:30-14:15〈45分〉

「セキュリティオペレーション事業の現状問題点と改善課題について」 武智 洋氏/ラック 許 先明氏/ブロードバンドセキュリティ

川口洋氏/ラック 出口幹雄氏/富士通

【情報セキュリティ教育事業者連絡会 (ISEPA)】14:30-15:00 〈30分〉 「ISEPAの活動実績と「情報セキュリティ人財アーキテクチャ」について」

「ISEPAの活動実績と「情報セキュリティ人財アーキテクチャ」について」 (勝見 勉氏/広報WGリーダ)

12:25~13:30 昼休み

【西日本支部】13:30-14:00〈30分〉

13:30-14:00 出社してから退社するまでのリスク対策WG〈30分〉 「出社してから退社するまでのリスク対策」 (元持哲郎氏/アイネット・システムズ)

【2008年度経済産業省委託事業

「中小企業向け指導者育成事業」実施報告】14:00-14:30〈30分〉 (持田啓司氏/大塚商会)

【U40部会】14:30-15:00〈30分〉

「U40部会活動報告」

(嘉津義明氏/シマンテック)

2009 年度 「インターネット安全教室」のお知らせ

~パソコンや携帯電話で思わぬトラブルや犯罪にまきこまれないために~

誰でも手軽にインターネットに接続できるようになった今日、ウイルス感染、詐欺行為、プライバシー侵害など情報犯罪の被害にあう危険性がますます高くなってきています。いかに技術が進歩しても、ひとりひとりの意識の向上、モラルの徹底がなければ、これらの被害を防ぐことはできません。

こうした状況をふまえ、経済産業省とNPO 日本ネットワークセキュリティ協会 (JNSA) では、家庭や学校からインターネットにアクセスする人々を対象に、どうすればインターネットを安全快適に使うことができるか、被害にあったときにはどうすればいいかなど、情報セキュリティに関する基礎知識を学習できるセミナー「インターネット安全教室」を2003年度より開催してまいりました。

2008年度は全国で125回のインターネット安全教室を開催、7451名の方々にご参加いただきました。家庭向けのリーフレット「親子で守って安全・安心10か条」や「まんがインターネット安全教室」を作成し、配布するなど、昨今のネット利用の低年齢化にも配慮しています。

2009年度も全国各地の共催団体の方々のご協力を得て、引き続き開催してまいります。なお、現時点での開催状況は以下のとおりです。



[主 催] 経済産業省、NPO 日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)

[後 援] 警察庁、その他各開催地大学・新聞社・県・県警等(以上予定)

[開催一覧] (次頁)一覧をご覧下さい。(2009年8月7日現在)

最新の開催状況については、随時「インターネット安全教室」ホームページをご確認ください。 http://www.jnsa.org/caravan/





◆「インターネット安全教室」共催団体募集について◆

以下の地域での開催にご協力いただける団体を募集しております。 北海道(札幌、小樽など未開催地域)、秋田市、松本市、茨城県、兵庫県、高知県、広島県、鳥取市

- ・一般市民向けの情報セキュリティセミナーを実施したいがコンテンツがない。
- ・教材を製作するコストも手間もかかるのでなかなかできない。
- セミナー運営のノウハウがない。
- ・しかし、情報セキュリティは大切。普及活動を行わないといけないと思っている。

とお考えの団体等におかれましては、是非とも「インターネット安全教室」の共同開催をご検討下 さい。また、そのような団体をご存知の方は是非事務局までご紹介下さい。

詳しくは下記のお問い合わせ先までご連絡下さい。

【お問い合わせ先】 NPO 日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)事務局(担当:林・平田) E-Mail: caravan-sec@jnsa.org

2009年度「インターネット安全教室」開催一覧

日程	開催地	共催団体	会場
5月15日 (金)	長野	上田市マルチメディア情報センター	上田市マルチメディア情報センター
5月16日 (土)	福井	NPO法人ナレッジふくい	福井県立大野高校 第1体育館
5月19日 (火)	栃木	NPO栃木県シニアセンター	大田原市福祉センター研修室
5月21日 (木)	石川	(社)石川県情報システム工業会	石川県産業展示館1号館 「e-messe kanazawa 2009」メインステージ
5月23日 (土)	大阪	NPO法人きんきうぇぶ	富田林市立人権文化センター
5月29日(金)	栃木	NPO栃木県シニアセンター	栃木県シルバー大学校北校 A教室
6月4日 (木)	富山	(株)富山県総合情報センター	富山市立水橋中学校
6月6日(土)	三重	PCシエル	三重県総合文化センター内 三重県男女共同参画センター フレンテみえ
6月8日 (月)	和歌山	NPO情報セキュリティ研究所	和歌山市立河西中学校
6月11日 (木)	群馬	NPO法人 おおたIT市民ネットワーク	太田市立中央小学校 体育館
6月18日 (木)	群馬	NPO法人 おおたIT市民ネットワーク	太田市立木崎小学校 図書館
6月22日 (月)	大阪	NPO法人 きんきうぇぶ	河南町大宝老人集会所
6月26日(金)	徳島	財団法人e-とくしま推進財団	徳島市立国府小学校
7月1日 (水)	富山	(株)富山県総合情報センター	滑川市立滑川中学校
7月2日 (木)	福島	特定非営利活動法人日本コンピュータ振興協会	中島村生涯学習センター
7月4日 (土)	大阪	NPO法人きんきうぇぶ	羽曳野市市民会館
7月8日 (水)	群馬	NPO法人 おおたIT市民ネットワーク	太田市立休泊中学校 体育館
7月8日 (水)	埼玉	NPO情報セキュリティフォーラム	新座市立第四小学校
7月8日 (水)	千葉	千葉県インターネット防犯連絡協議会	松戸商工会議所 大会議室
7月8日 (水)	大阪	NPO法人 きんきうぇぶ	河内長野市立小山田小学校
7月10日(金)	千葉	NPO法人松戸ITVネットワーク	松戸市文化ホール4F
7月14日 (火)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	大和市青少年センター
7月15日 (水)	大阪	NPO法人 きんきうぇぶ	南河内郡太子町立公民館2階 研修室
7月17日 (金)	富山	(株)富山県総合情報センター	南砺市役所 福野庁舎 講堂
7月17日 (金)	東京	私立桐朋女子中学校	会場同じ
7月20日 (月)	島根	NPO法人プロジェクトゆうあい	タウンプラザしまね2F 映像コーナー
7月25日 (土)	山口	山口県セキュリティマネンジメントフォーラム	下関市立川中公民館 視聴覚教室
7月27日 (月)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	綾瀬市商工会館
7月28日 (火)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	相鉄岩崎学園ビル 8階 809室
8月1日 (土)	滋賀	NPO滋賀県情報基盤協議会	滋賀県立八幡工業高等学校
8月6日 (木)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	川東タウンセンター マロニエ2F 集会室202
8月13日 (木)	福井	NPO法人ナレッジふくい	福井県生活学習館
8月21日 (金)	徳島	財団法人e-とくしま推進財団	徳島市立城西中学校 体育館
8月30日(日)	岐阜	NPO法人アツマールぎふ	岐阜市東部コミュニティセンター
9月3日 (木)	大阪	NPO法人 きんきうぇぶ	河内長野市立南花台西小学校
9月3日 (木)	大阪	NPO法人 きんきうぇぶ	河内長野市立楠小学校
9月7日 (月)	鹿児島	NPO法人鹿児島インファーメーション	奄美情報処理専門学校

日程	開催地	共催団体	会場
9月13日 (日)	島根	NPO法人プロジェクトゆうあい	タウンプラザしまね2F 映像コーナー
9月16日 (水)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	鎌倉商工会議所
10月1日 (木)	大阪	NPO法人 きんきうぇぶ	河内長野市立高向小学校
10月3日 (土)	福岡(新規)	西日本短期大学	西日本短期大学
10月9日 (金)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	鶴見公会堂
10月14日 (水)	群馬	NPO法人 おおたIT市民ネットワーク	太田市立旭中学校 体育館
10月16日 (金)	群馬	NPO法人おおたIT市民ネットワーク	太田市立毛里田中学校 体育館
10月16日 (金)	大阪	NPO法人 きんきうぇぶ	河内長野市立楠小学校
10月28日 (水)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	二宮町ITふれあい館
10月30日 (金)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	ウェルネスさがみはら A館7階 視聴覚室
9月又は10月 開催予定	和歌山	NPO情報セキュリティ研究所	和歌山市立河西中学校
11月6日 (金)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	男女共同参画センター横浜南 (フォーラム南太田)
11月9日 (月)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	藤沢市役所防災センター
11月12日 (木)	青森	NPO市民と電子自治体ネットワーク	青森県観光物産館アスパム5F 白鳥
11月19日 (木)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	横須賀市役所
11月19日 (木)	大阪	NPO法人 きんきうぇぶ	河内長野市立加賀田小学校
11月28日 (土)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	麻生市民館
12月13日 (日)	宮崎	宮崎公立大学	宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール
12月	群馬	NPO法人 おおたIT市民ネットワーク	太田市立藪塚本町南小学校
1月26日 (火)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	厚木市ヤングコミュニティセンター
2月14日 (日)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	海老名市役所
2月20日(土)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	葉山町福祉文化会館

【第2回全国情報セキュリティ啓発シンポジウム】 09/10/24(土) 【宮崎県宮崎市】 詳細は未定

【2009年度 講師トレーニング】

09/08/04 (火) ~05 (木) 【神奈川県横浜市】 協力: NPO情報セキュリティフォーラム 09/09/26 (土) ~27 (日) 【福島県】 協力: NPO日本コンピュータ振興協会 30

事 │ 務 │ 局 │ お │ 知 │ ら │ せ

JANSOUNCE

主催セミナーのお知らせ

● 第2回全国情報セキュリティ啓発シンポジウム in宮崎(仮称)

会 期: 2009 年 10 月 24 日 (土)

主 催: 経済産業省

NPO日本ネットワークセキュリティ協会

共 催: 宫崎公立大学

会場:宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール 詳細については、JNSAホームページをご覧下さい。

後援・協賛イベントのお知らせ

CompTIA Japan ITSC 2009
 (CompTIA日本支局 インストラクター・トレーナースキルコンペ)

会 期: 2009 年 8 月 1 日 (土) ~ 10 月 31 日 (土)

主 催: CompTIA日本支局

会 場: なし (DVD及び書類を事務局に郵送)

URL: 作成中

2. 中小企業庁委託事業

「平成21年度情報モラル啓発セミナー」 会 期: 岡山:8月6日(木)、滋賀:8月28日(金)、

> 徳島:9月予定、富山:10月予定、 佐賀:12月予定、茨城:2月予定

主 催:中小企業庁、各経済産業局、

財団法人ハイパーネットワーク社会研究所

会場: 岡山コンベンションセンター (イベントホール)、

コラボしが21 (大会議室)

徳島会場(未定)、富山会場(未定)、 佐賀会場(未定)、茨城会場(未定)

http://www.hyper.or.jp/staticpages/index.php/moral

3. 2009年度全国縦断 情報セキュリティ監査セミナー

会期と会場:

◎札幌 8月28日(金) 札幌第一合同庁舎

◎高松 9月30日(水) 高松サンポート合同庁舎アイホール

◎仙台 10月2日(金) 仙台第二合同庁舎

◎富山 11月25日(水) タワー111スカイホール

◎大阪 12月16日(水) 大阪合同庁舎一号館

◎広島 1月18日(月) RCC文化センター

◎名古屋 1月26日(火) 中産連研修室

◎大分 2月5日(金) 大分第2ソフィアプラザビル

主 催: 経済産業省

特定非営利活動法人 日本セキュリティ監査協会

(JASA)

会 場:マリンメッセ福岡

http://www.jasa.jp/seminar/secf2009lh.html

4. モノづくりフェア2009

会 期: 2009 年 10 月 15 日 (木) ~ 17 日 (土)

主 催:日刊工業新聞社会 場:マリンメッセ福岡

http://www.nikkanseibu-eve.com/mono

5. AVAR 2009 in Kyoto

会 期:2009 年 11 月 5 日 (木) ~ 6 日 (金)

主 催: AVAR Association of anti Virus Asia Researchers

会 場:ハイアットリージェンシー京都

http://www.aavar.org

JNSA 部会・WG 2009 年度活動

本年は、JNSAの活動全体を見直すことを2月の拡大幹事会より開始し、計4回の幹事会(臨時幹事会を含む)やリーダー会の検討を経て、以下のように部会の構成を変更することとした。見直しの目的は、情報セキュリティに対する社会環境の変化と会員のニーズに対応するためであり、この見直しによって、JNSAの発展と会員の積極的な参加を促し、社会にJNSAがより一層貢献できることを目指す。

<新設>

- · 社会活動部会
- ·調查研究部会
- ·標準化部会
- ・会員交流部会

<継続>

- ・教育部会(但し、活動内容の見直しを実施)
- ·U40部会
- · 西日本支部
- ・情報セキュリティ教育事業者連絡会(ISEPA)
- ・日本セキュリティオペレーション事業者協議会 (ISOG-J)

<廃止>

- ·政策部会
- ·技術部会
- マーケティング部会

以下、各部会の概要について記述する。なお、既設のWG の中で本年も継続するWGはそれぞれの部会に分類した。

1. 社会活動部会

(部会長: 西本逸郎 氏/ラック)

外部に向けた情報発信や対外的な社会貢献活動、国際 連携や他組織との連携などを推進する。具体的には、政 府関連のパブコメ対応や勉強会などの対外活動、委託事 業や外部への普及啓発などの社会貢献活動、指導者育成 や講師派遣などの対外的支援活動、国際・他団体連携な どを進める。

【セキュリティ啓発WG】

(リーダー: 平田敬 氏/株式会社ブリッジ・メタウェア)

2008年度同様、経済産業省の委託事業である「インターネット安全教室」の企画・運営を通してセキュリティ啓発活動を行う。

【情報セキュリティ関連パブコメ検討WG】

(リーダー:河野省二氏/株式会社ディアイティ)

情報セキュリティの専門家として、国の政策を十分に理解しておくことは必須条件だと考えられる。また、政策を理解した上で、専門家としての意見を述べることについても求められている。政策について十分な理解と意見を述べる場を作ることを目的に活動していく。

予定成果物は、勉強会の開催報告書、パブリックコメント、パブリックコメント対応報告書。

2. 調査研究部会

(部会長:加藤雅彦 氏/株式会社アイアイジェイテクノロジー) 調査活動と技術的研究や勉強会などを行う。

JNSAで例年行っている被害額調査や市場調査以外にも、製品・サービス調査や勉強会なども積極的に行う。また、技術的研究としてはIPv6やクラウドコンピューティングなどの新技術の研究、その他勉強会などを行う。

【セキュリティ被害調査WG】

(リーダー:大谷尚通 氏/株式会社NTTデータ)

これまでと同様に2009年1年間に発生した情報漏えいによる情報セキュリティ被害の実態を調査し、情報漏えいインシデントの傾向、対策状況、組織に与えるインパクト等を定量的に分析し、報告書として公開する。また、情報漏えい以外の情報セキュリティインシデントについて算定モデルを具体化し、アンケート・調査を行い、組織に与えるインパクト等の定量化を目指す。

予定成果物は

- ・「2008年度 情報セキュリティインシデントに関する調査 報告書本編、英訳版)」
- ・「2008年度 情報セキュリティインシデントに関する調査 データCD-ROM」
- ・「2009年度 情報セキュリティインシデントに関する調査 上半期速報」
- ・「2009年度 情報セキュリティインシデントに関する調査 速報」(未定)
- ・情報漏えい以外の情報セキュリティインシデントに関する 算定モデル検討結果のレポート(未定)。

【セキュリティ市場調査WG】

(リーダー: 勝見勉 氏/株式会社情報経済研究所)

情報セキュリティに関する市場の状況ならびに規模等を調査・分析し、WG参加者、JNSA、業界、行政の参考に供する。併せて参加者の勉強・研鑽の場として活用してもらい、業界知識の拡大、人脈の展開、調査分析スキルの向上に資する。

2008年度と同様の調査が実施されるなら、継続受注を

目指して、調査を継続する。

予定成果物は、「2009年度版情報セキュリティ市場調査報告書」。

3. 標準化部会

(部会長:中尾康二氏/KDDI株式会社)

利用者のニーズのサーベイを絶えず進め、広い国際規格化というより、業界、分野を絞った「役に立つ標準化」を迅速に推進する。具体的には、JNSA目線で標準化のトピックを選定し、業界に役に立つベストプラクティスの提供を目指す。これらの活動の成果物として、各々のトピックに対応するセキュリティガイドライン、及びセキュリティベースラインなどを提供する。さらに、これらの成果物を国際標準化活動と連携させ、国際的な規格展開も視野に入れて活動を活性化することとしたい。

【セキュリティにおけるアイデンティティ管理WG】

(リーダー: 宮川晃一 氏

/グローバルセキュリティエキスパート株式会社)

内部統制監査の状況確認とRole Base Access Control のモデルケース作成を目的とする。

予定成果物は、内部統制におけるアイデンティティ管理 第3版。

【セキュアプログラミングWG】

(リーダー: 伏見諭 氏/株式会社情報数理研究所)

システム開発におけるセキュアプログラミングの話題を 広く扱うが、実務的には国際規格案であるISO/IEC WD 27034の検討を詳細に行う。

予定成果物は、SC27/WG4等に対するコメントなど。

【情報セキュリティ対策マップ検討WG】

(リーダー: 奥原雅之 氏/富士通株式会社)

「情報セキュリティ対策マップ」はISMSのリスク分析やセキュリティ対策の効果測定など、組織全体のセキュリティ活動の把握・可視化のための有効な手法となる。本WGでは、組織内の「情報セキュリティ対策マップ」を作成するための手法、記述モデル、および汎用的な標準情報セキュリティ対策マップ案を開発することを目的とする。

予定成果物は、2年目の今年度は、情報セキュリティ対 策マップモデルおよび、標準情報セキュリティ対策マップ案。

【国際化活動バックアップWG】

(リーダー:中尾康二氏/KDDI株式会社)

国際標準を始めとする国際化活動のバックアップを行う ことを目標とし、現状の国際活動の内容や問題点のヒアリング、標準化提案の具体例についてディスカッションを行う。 ISOやITU-T、IETF等に参加されている方々の情報交換、情報共有を行う場として、広く議論の機会を提供していく。

【PKI相互運用技術WG】

(リーダー: 松本泰 氏/セコム株式会社)

PKIの相互運用技術に係る課題に関しての情報共有と、 その中で重要だと認識されたものは、情報発信も行う。 今年度も引き続きPKI day 2009を開催予定。

11月に広島でIETFが行われるため、そこでの活動も検討する。

プロジェクト

(Challenge PKI)

(リーダー: 松本泰 氏/セコム株式会社)

2009年は、「暗号アルゴリズム移行問題」や、電子政府などでも検討されている認証と署名の保証レベル等に対応した活動を検討する。

4. 教育部会

(部会長:安田直 氏/サイバー大学/JNSA主席研究員)

良質かつ社会のニーズに適合したセキュリティ人材の育成のため、必要とされる知識・技能等の検討を行い、その成果を会員共同プロジェクトや産学協同プロジェクトを実施することにより会員ならび社会に還元する。

【CISSP行政情報セキュリティCBK-WG】

(リーダー: 大河内智秀 氏

/エヌ・ティ・ティ ラーニングシステムズ株式会社)

CISSP行政情報セキュリティCBK更新に関する調査及び、関連する活動を行う。

予定成果物は、調査レポート他。

【セキュリティ講師スキル研究WG】

(リーダー: 長谷川長一 氏/株式会社ラック)

引き続き、セキュリティ講師に必要なスキルの調査研究 および実証を行う。(情報セキュリティ教育事業者連絡会; ISEPAとの連携による活動も行う)

策定した「セキュリティ講師スキル(案)」をもとに更なる調査 や実証実験を実施する。予定成果物は、「セキュリティ講 師スキル研究調査報告書」

【情報セキュリティ教科書執筆者WG】

(リーダー: 塩見友規 氏/オー・エイ・エス株式会社)

昨年度作成した「情報セキュリティプロフェッショナル教 科書」の普及、活用方法の検討などを行う。

【情報セキュリティ基本教育実証WG】

(リーダー:平山敏弘 氏/日本アイ・ビー・エム株式会社)

平成21年度は、岡山理科大学での講義対象を広げ、 履修2単位対象となる半期(6ヶ月)で計15回の講義を実施 予定。

5. 会員交流部会

(部会長: 蛭間久季 氏/株式会社アークン)

情報セキュリティ業界の健全な発展のために、会員向けサービスを充実させ、業界の発展に貢献する。具体的には勉強会や会員交流会の企画、情報交換・情報発信等を行う。

【セキュリティ理解度チェックWG】 (旧セキュリティリテラシーベンチマークWG)

(リーダー:大溝裕則 氏/株式会社JMCリスクソリューションズ) 引き続き日本の情報セキュリティのリテラシー向上を目指し、「理解度セルフチェックサイト」、「情報セキュリティ 理解度チェック」、「情報セキュリティ理解度チェック・プレミアム」の利用者増加のための活動を行う。

予定成果物は、サイトの解説用資料、新規問題作成。

【バイヤーズガイドサイトWG】

(リーダー: 小屋晋吾 氏/トレンドマイクロ株式会社)

「セキュリティ製品バイヤーズガイド」へのコンテンツ提供や製品登録への協力などについて検討を行う。

6. 西日本支部

(部会長:井上陽一氏/JNSA顧問)

JNSA西日本支部は関西に拠点を置くメンバー企業の協 賛の下、西日本におけるネットワーク社会のセキュリティレベルの維持・向上並びに、日々高まる情報セキュリティへのニーズに応えるべく、先進性を追及すると共に、質の高いサービスを提供する事を目的として、中小企業に軸足を置いた活動を行う。

【情報セキュリティチェックシートWG】

(リーダー: 嶋倉文裕 氏

/富士通関西中部ネットテック株式会社)

同様なシートやガイダンスが氾濫する中で、情報セキュリティ対策に悩む中小企業を現場目線で支援する為、中小企業が実践できるアプローチ手法確立のために、DSS 化を目指す予定。

成果物であるチェックシート及び経験則に基づいた知見により中央を逆に指導できるフェーズに来ている事から、地域からの声を中央省庁のガイドラインに盛り込んでいく活動を第一義に継続する。年度前半は前年度の課題を再

整理し、年度後半は新WGの活動成果とシナジー効果を持つ、中小企業が実際に実践できるアプローチ手法の提示(現行チェックシートのバージョンアップ)を行う。

【出社してから退社するまでのリスク対策WG】

(リーダー: 元持哲郎 氏/アイネット・システムズ株式会社) 個人情報保護対策チェックシートWG、情報セキュリティチェックシートWGの集大成として、中小企業で想定される一般的な業務に潜む情報セキュリティ上のリスクを特定し、リスク度に応じた各リスクに対する対応・対策を検

予定成果物は、中小企業が実際に実践できるアプローチ 手法の提示(ライフワークプロセスベースのリスク視点での 対策シートの作成)を行うと共に、中小企業版DSSの作成 にチャレンジする。

【企画·運営WG】

討する。

(リーダー: 斎藤聖悟 氏/株式会社インターネットイニシアティブ) 情報セキュリティ対策に悩む中小企業を現場目線で支援するため、METI並びにIPAの中小企業の情報セキュリティ支援活動と連携して、地域の現実や要望を伝える。また、関西で活動するKIIS、JASA、JISA、JASIPA等の団体との連携を強化し、地域の活性化に貢献するための啓蒙・啓発活動を実践する。

活動予定として、METI並びにIPAの中小企業の情報セキュリティ支援活動と連携しての啓発活動並びに支部メンバーの学習・研究活動を本部との連携を図りながら、3か月に1回のペースで実践する。秋には西日本支部としてのメインセミナーを開催する予定。

予定成果物は、中小企業の情報セキュリティ対策支援 WG活動報告書の続編の作成。

7. U40部会

(支部長:嘉津義明氏/株式会社シマンテック)

若年層を対象メンバーとして、JNSAの若返り、若年層の活動活発化、幅広い人脈形成を目的とする。

【JNSAラボネットWG】

(リーダー: 米沢晋 氏/株式会社ISAO)

ワーキンググループの活動における、実環境を使った技術検証などが円滑に行えるように、検証環境の設計と構築を議論し、実際の環境構築を行う。またU40部会のWGとして、本活動を通して若手メンバーのスキル向上を図る。

活動予定として、ラボネットの環境構築、利用用途と運 用方法の検討、管理方法の確立。

予定成果物は、検証環境の提供。

【勉強会企画検討WG】

(リーダー:前田典彦 氏/株式会社Kaspersky Labs Japan) 若年層の知識および技術向上のため、U40メンバー向けの勉強会を企画検討し講師手配などを行う。これにより外部との人脈作りおよび運営面についてのスキルアップも図る。

また、聴講枠に余裕があればJNSA会員にも聴講枠を設ける。

8. 情報セキュリティ教育事業者連絡会(ISEPA)

(代表: 与儀大輔 氏/株式会社ラック)

現在は広報WG・スキルWG・相互認証WGの3つで活動しており、スキルWGを中心としたアーキテクチャーの利用促進及びITSSとの相互補完などを行うと共に、参加団体による相互互恵関係を推進し、広く情報発信を行う為の活動を毎月1回の連絡会及び各WGで検討、推進してゆく予定。昨年度同様にJNSAと連携してのイベントも開催する。

来年度は情報セキュリティ人財育成アーキテクチャー利 用ガイドの作成・配布・Web公開を予定している。

【広報WG】

(リーダー: 勝見勉 氏/NPO日本セキュリティ監査協会)

ホームページ、各種イベント、あるいは各種の広報活動により、ISEPA情報セキュリティ教育事業者連絡会の活動や取り組みを、社会に広く紹介していく。

【スキルWG】

(リーダー: 衣川俊章 氏

/株式会社ITプロフェッショナル・グループ)

各団体の資格試験の内容を体系的に整理し、各資格試験の相関図の作成やキャリアパスを提示し、情報セキュリティの分野で求められる人材像を具体的に示していく。

【相互認証WG】

(リーダー:関取嘉浩氏/NRIセキュアテクノロジーズ株式会社) 数多くある情報セキュリティ資格がそれぞれ発信している情報をまとめたり、資格や教育プログラム間で相互の認証が行われるような働きかけを行うと共にISEPA会員団体他のセキュリティ資格保有者数を4半期ごとに集計してサイトで公開していく。

9. 日本セキュリティオペレーション事業者協議会 (ISOG-J)

(代表: 武智洋 氏/株式会社ラック)

2009年度も引き続き4つのWGで活動を行ない、セキュリティオペレーションマップ、関連法ガイド等 ユーザおよび会員にとって有用な成果を出すと共に、会員各社の連携を深める活動を行う。

【セキュリティオペレーションガイドラインWG】

(リーダー: 許先明氏

/株式会社ブロードバンドセキュリティ)

セキュリティオペレーションサービスに関するマップの更新と、セキュリティオペレーションサービスに関するガイドライン作成を行う。

【セキュリティオペレーション技術WG】

(リーダー:川口洋 氏/株式会社ラック)

各社のSOC見学等を行うと共に、技術情報の交換等を 行い、各社のオペレータおよび技術者間の人的交流の促 進を図る。ISOG-Jメンバ向けハンズオンを開催予定。

【セキュリティオペレーション関連法調査WG】

(リーダー: 出口幹雄 氏/富士通株式会社)

セキュリティオペレーション事業者の関連法集の更新と 一般公開の準備を行う。

【セキュリティオペレーション認知向上·普及啓発WG】

(リーダー: 武智洋 氏/株式会社ラック)

認知向上・普及啓発に関する検討およびISOG-J運営に 関する作業を実施する。

ISOG-J向け内部セミナーの開催、外部向けセミナーでの講演を予定。



JNSA 役員一覧 2009 年 7 月現在

会 長 佐々木 良一 東京電機大学 教授 副会長 高橋 正和 マイクロソフト株式会社

副会長 中尾 康二 KDDI株式会社

副会長 大和 敏彦 株式会社ブロードバンドタワー

理 事(50音順)

足立 修 株式会社シマンテック

池田 修一 エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社

後沢 忍 三菱電機株式会社 情報技術総合研究所

遠藤 直樹 東芝ソリューション株式会社 大城 卓 新日鉄ソリューションズ株式会社

勝見 勉 株式会社情報経済研究所

川上 博康 セコムトラストシステムズ株式会社

後藤 和彦 株式会社大塚商会

小屋 晋吾 トレンドマイクロ株式会社

佐藤 邦光 大日本印刷株式会社

下村 正洋 株式会社ディアイティ

立石 和義 エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジ株式会社

橘 伸俊 株式会社ネットマークス 西尾 秀一 株式会社NTTデータ

西本 逸郎 株式会社ラック

野々下 幸治 マカフィー株式会社

森田 次朗 インスパイアー株式会社

日暮 則武 イーデザイン損害保険株式会社

山野 修 RSAセキュリティ株式会社

吉原 勉 株式会社アイアイジェイテクノロジー

幹事(50音順)

安達 智雄 日本電気株式会社

稲田 清崇 キヤノンITソリューションズ株式会社

大島 耕二 株式会社ネットマークス

勝見 勉 株式会社 情報経済研究所

加藤 雅彦 株式会社アイアイジェイテクノロジー

門田 進一郎 エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社

北折 昌司 東芝ソリューション株式会社

郷間 佳市郎 株式会社日立情報システムズ

久手堅 憲之 シスコシステムズ合同会社

小屋 晋吾 トレンドマイクロ株式会社

佐藤 憲一 株式会社大塚商会

佐藤 徹次 ネットワンシステムズ株式会社

佐藤 友治 株式会社ブロードバンドセキュリティ

下村 正洋 株式会社ディアイティ

高橋 正和 マイクロソフト株式会社

近田 恭之 大日本印刷株式会社

中川 一之 エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジ株式会社

西本 逸郎 株式会社ラック 野々下 幸治 マカフィー株式会社

馬場 重通 インスパイアー株式会社

平田 敬 株式会社ブリッジ・メタウェア

蛭間 久季 株式会社アークン

二木 真明 住商情報システム株式会社

村上 智 株式会社シマンテック

安田 直 株式会社ディアイティ/JNSA主席研究員

油井 秀人 富士通エフ・アイ・ピー株式会社

与儀 大輔 株式会社ラック

監 事

土井 充 公認会計士 土井充事務所

顧問

井上 陽一

今井 秀樹 中央大学 教授

北沢 義博 霞が関法律会計事務所 弁護士

武藤 佳恭 慶応義塾大学 教授 前川 徹 サイバー大学 教授

 村岡
 洋一
 早稲田大学
 教授

 安田
 浩
 東京電機大学
 教授

山口 英 奈良先端科学技術大学院大学 教授

吉田 眞 東京大学 教授

事務局長

下村 正洋 株式会社ディアイティ

【あ】

- (株)アーク情報システム
- (株)アークン
- RSAセキュリティ(株)
- (株)アイアイジェイ テクノロジー
- アイエックス・ナレッジ(株)
- (株)アイ・エム・エヌ New
- (株)ITプロフェッショナル·グループ
- (株)アイ・ティ・フロンティア
- (株)アイティーブレーン
- (株)アイテクノ
- アイネット・システムズ(株)
- (株)アイ・ビー・イー・ネット・タイム
- アイマトリックス(株)
- (株)アクシオ
- あずさ監査法人
- (株)アルテミス
- (株)アルファシステムズ
- アルプスシステムインテグレーション(株)
- イーデザイン損害保険(株) New



- (株) ISAO
- 伊藤忠テクノソリューションズ(株)
- 学校法人 岩崎学園
- (株) インストラクション
- インスパイアー(株)
- (株) インターネットイニシアティブ
- (株) インテリジェントウェイブ
- インフォコム(株)
- (株)インフォセック
- ウェブルート・ソフトウェア(株)
- (株) AIR New



- AT&Tジャパン(株)
- (株)エス・エス・アイ・ジェイ
- (株)エス・シー・ラボ
- SBIネットシステムズ(株)
- NR I セキュアテクノロジーズ(株)
- エヌアイシー・ネットシステム(株)
- NECソフト(株)
- NECネクサソリューションズ(株)
- エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジ(株)
- エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)

- エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)
- エヌ・ティ・ティ・コムチェオ (株)
- エヌ・ティ・ティ ラーニングシステムズ(株)
- NTTコムテクノロジー(株)
- (株) NTTデータ
- (株) NTTデータCCS
- (株)エネルギア・コミュニケーションズ
- F5ネットワークスジャパン(株)
- オー・エイ・エス (株)
- (株)OSK New
- (株)大塚商会

【か】

- (株) Kaspersky Labs Japan
- 兼松エレクトロニクス(株)
- 関電システムソリューションズ(株)
- キヤノン [Tソリューションズ (株)
- キヤノンマーケティングジャパン(株)
- 九電ビジネスソリューションズ(株)
- 京セラコミュニケーションシステム(株)
- クオリティ(株)
- グロヴァレックス (株)
- グローバルセキュリティエキスパート(株)
- (株)ケーケーシー情報システム
- KDDI(株) New



- (株) コネクタス
- コンピュータエンジニアリングサービス(株)

【さ】

- サードネットワークス (株)
- サイバーエリアリサーチ(株)
- サイバーソリューション(株)
- サン・マイクロシステムズ(株)
- (株)シー・エス・イー
- (株) JMCリスクソリューションズ
- ジェイズ・コミュニケーション(株)
- JPCERTコーディネーションセンター
- (株)シグマクシス New



- シスコシステムズ (同)
- システム・エンジニアリング・ハウス (株)
- (株)シマンテック



(株)情報経済研究所

(株)情報数理研究所

新日鉄ソリューションズ(株)

新日本有限責任監査法人

(株)ステラクラフト

住商情報システム(株)

(株)セキュアブレイン

セキュリティ・エデュケーション・アライアンス・ジャパン

セコム(株)

セコムトラストシステムズ(株)

(株)セラク

セントラル短資FX(株)

ソニー(株)

ソフォス(株)

ソフトバンク(株)

ソフトバンク・テクノロジー(株)

ソフトバンクBB(株)

ソラン(株)

(株) ソリトンシステムズ

(株) 指保ジャパン・リスクマネジメント

【た】

大興電子通信(株)

大日本印刷(株)

(株)大和総研

(株)タクマ

TIS(株)

(株)ディアイティ

デジタルアーツ(株)

(株)電通国際情報サービス

監査法人トーマツ

東京エレクトロン デバイス(株)

東京海上日動火災保険(株)

東芝ITサービス(株)

東芝ソリューション(株)

ドコモ・システムズ(株)

トレンドマイクロ(株)

[な]

(株)ニコンシステム

西日本電信電話(株)

日信電子サービス(株)

日本アイ・ビー・エム (株)

日本アイ・ビー・エム システムズエンジニアリング(株)

日本オラクル(株)

日本クロストラスト(株)

日本サード・パーティ(株) New



日本CA(株)

(株)日本システムディベロップメント

日本セーフネット(株)

日本電気(株)

日本電信電話(株)

日本ベリサイン(株)

(株)ネットマークス

ネットワンシステムズ (株)

(株)野村総合研究所

【は】

パスロジ(株)

パナソニック電工(株)

バリオセキュア・ネットワークス (株)

(株)日立システムアンドサービス

(株)日立情報システムズ

日立ソフトウェアエンジニアリング(株)

(株) PFU

ヒューベルサービス(株)

富士ゼロックス(株)

富士ゼロックス情報システム(株)

富士通(株)

富士通エフ・アイ・ピー (株)

(株)富士通エフサス

富士通関西中部ネットテック(株)

(株)富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ(富士通SSL)

(株)富士通ビジネスシステム

扶桑電通(株)

フューチャーアーキテクト (株)

(株) ブリッジ・メタウェア

(株) ブロードバンドセキュリティ

(株)ブロードバンドタワー

【ま】

(株)マイクロ総合研究所

マイクロソフト (株)

マカフィー (株)

みずほ情報総研(株)

三井物産セキュアディレクション(株)

(株)三菱総合研究所

三菱総研DCS(株)

- 三菱電機(株)情報技術総合研究所
- 三菱電機情報ネットワーク(株)
- (株)メトロ
- (株)MONET

【や】

ユーテン・ネットワークス (株)

(株)ユービーセキュア

[5]

(株)楽堂

(株)ラック

リコー・ヒューマン・クリエイツ (株)

(有) ロボック

【わ】

(株) ワイ・イー・シー

(株)ワイズ

【特別会員】

社団法人 コンピュータソフトウェア協会 ジャパン データ ストレージ フォーラム 財団法人 ソフトピアジャパン データベース・セキュリティ・コンソーシアム 特定非営利活動法人デジタル・フォレンジック研究会 電子商取引安全技術研究組合

東京大学大学院 工学系研究科

社団法人 日本インターネットプロバイダー協会 社団法人 日本コンピュータシステム販売店協会

特定非営利活動法人 日本システム監査人協会 New

特定非営利活動法人 日本セキュリティ監査協会

一般社団法人 日本電子認証協議会



JNSA 年間活動 (2009 年度)

	Lieue	F6-144 + A	
4月	4月11日	臨時幹事会	
	5.0.4.0	- coco 左応理主人 /卡 /四 / co - l = // \	
5月	5月1日	2009 年度理事会 (虎ノ門パストラル)	_
	5月19日	「第7回迷惑メール対策カンファレンス」後援	
	5月21~22日	「SCM シンポジウム 2009」「SCM ソリューションフェア 2009」協賛	_
	5月27日	「IPv6 Summit 2009」後援	_
	5月27日	第1回幹事会	
	5月29日	「仮想化インフラ・ワークショップ [03]」後援	
6月	6月3日	2008 年度 WG 活動報告会(ベルサール神田)	_
	6月3日	2009 年度総会(ベルサール神田)	
	6月4~5日	「第 13 回サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム」後援	
	6月8~12日	「Interop Tokyo 2009」後援	
	6月8~12日	「RSA Conference Japan 2009」後援	
	6月18日	「日韓 IT ビジネス交流会」後援	
	6月24日	「PKI Day 2009」セミナー(東京ウィメンズプラザ)	
	6月29日	「ISACA 東京支部設立 25 周年記念講演会」後援	
7月	7月11日	「日本セキュリティ・マネジメント学会 第 23 回全国大会」後援	
	7月14日	第2回幹事会	
	7月15~17日	「自治体総合フェア 2009」協賛 2009 年 5	
	7月16日	被害調査 WG・SI B WG 合同セミナー (五反田ゆっぽっと)	-
	7月16~17日	SANS Future Visions 2009 Tokyo 」後援	
	7月17日	大分県委託事業「おおいたネットあんしんセミナー」後援	
	7月22~24日	「ワイヤレスジャパン 2009」後援 安全教室」 開	催
8月	8月1日~10月31日	「CompTIA Japan ITSC 2009」後援	
	8月3~4日	「情報セキュリティ講師育成支援セミナー 2009 夏期」応用マネジメント 協賛	
	8月5~7日	「情報セキュリティ講師育成支援セミナー 2009 夏期」応用テクニカル 協賛	
	8月6日	中小企業庁委託事業「平成 21 年度情報モラル啓発セミナー」岡山 後援	
	8月20日	ISEPA・情報セキュリティ大学院大学共催「情報セキュリティ人財サミット」	
	8月27日	「CompTIA Breakaway Japan 2009」後援	
	8月28日	中小企業庁委託事業「平成 21 年度情報モラル啓発セミナー」滋賀 後援	
	8月28日	「2009 年度 全国縦断 情報セキュリティ監査セミナー」札幌 後援	
9月	9月30日	「2009 年度 全国縦断 情報セキュリティ監査セミナー」高松 後援	
10 月	10月2日	「2009 年度 全国縦断 情報セキュリティ監査セミナー」仙台 後援	
	10月15~17日	「モノづくりフェア 2009」 協賛	
	10月24日	「第2回全国情報セキュリティ啓発シンポジウム in 宮崎(仮称)」	
11 月	11月5~6日	「AVAR 2009 in Kyoto」後援	
	11月25日	「2009 年度 全国縦断 情報セキュリティ監査セミナー」富山 後援	
		2	
12 月	12月16日	「2009 年度 全国縦断 情報セキュリティ監査セミナー」大阪 後援	
1月	1月18日	「2009 年度 全国縦断 情報セキュリティ監査セミナー」広島 後援	
	1月26日	「2009 年度 全国縦断 情報セキュリティ監査セミナー」名古屋 後援	
		The second secon	
2月	2月5日	「2009 年度 全国縦断 情報セキュリティ監査セミナー」大分 後援	
_ / 3	= // -	1	
3 月			
- / 3			_
	1		₹

- \bigstar JNSA 活動スケジュールは、http://www.jnsa.org/aboutus/schedule.html に掲載しています。
- ★ JNSA 部会、WG の会合議事録は会員情報のページ http://www.jnsa.org/member/index.html に掲載しています。(JNSA 会員限定です)



アーク情報システムの島田 勝八郎(しまだ しょうはちろう)と申します。 昨年から、当協会に参加させていただきました新人です。よろしくお願いいたします。 **[趣味は]** 汗を流すこと。「楽しい」ゴルフ?

[はまっていること] 特になし。

[情報セキュリティに関して] 私にとっての<情報セキュリティ>… 個人情報保護法等は少し行き過ぎではないか? お蔭で、クラス会等の名簿類は、全て空白になり、また、情報漏洩事件では、企業側への罰則の重さに比べ、漏洩者への罰則が軽すぎるのではないかと思っています。しかし情報通信基盤が発達し、その利用価値に気付いてしまっ

た今、これも仕方がないのかとも思うこの頃です。「規制(懲罰)の蔭にビジネスあり」、指を銜えて見ているだけでは… 当社の持つ要素技術を使って少しだけお零れに与りたい、何時か何時か、日本発のセキュリティ製品を企画・開発・販売するのが夢です。

[座右の銘は?] 若い時は体力・気力もあり「何事も"足で聞き"、"手で見る"」という言葉が好きでした。何事も自分で調べ、経験して、そして自分の意見を主張していた<つもり>でしたから。ただ、最近は(調査・経験する)体力がなくなり、諦めムードも加わり「夢を持ち努力しても成功するとは限らない、だからと言って動かず「ただ」待っていても<成功>は転がり込んでこない」かな…。

[自身の性格は?] 周りからは「典型的なB型」と言われています。しかし、自身は「周りの空気が良く読め、 周りに十分気を使っている」と自負しております…。そう思うのが「B型の特徴」と揶揄されています。



みなさんこんにちは。インスパイアー株式会社の馬場と申します。今回ご指名をいただきましたので、これを機会に私のことを皆さんに知っていただければと思います。まず月並みですが、私個人のことを書かせていただきます。馬場重通、1957年酉年生まれの52歳です。関西は滋賀県の琵琶湖で産湯を使い、学生時代には夏は登山、冬はスキーと行動的に活動していました。

就職で関東に来て、早いもので30年経ちます。その間にいろんなことがありましたが、いまではすっかり関東の人になっています。と言いたいのですが、これだけ関東に長く住んでいても未だに関西弁で通しています。というよりも、関西弁は体に染み付いてい

るので一生消えることはないでしょう。商談の時など、関西弁は柔らかく聞こえるらしく、結構有利に働いてくれています。

性格はめっぽう明るくて人懐っこいです。それと、どんな時でも「楽しもう」という気持ちがありますので、 結構毎日を楽しんでいます。おかげでストレスとは無縁の存在です。趣味はドライブで、目的地を決めないで 適当に走って新しいものを見つけるのが好きです。またカメラやビデオで撮影したものをパソコンで編集した り、暇なときはネットサーフィンしたりとパソコンは結構使い込んでいます。

私個人の紹介はこの程度にしておき、IT やセキュリティに関して日頃思っていることや感じていることなどを書いてみたいと思います。世間では何でもかんでも「IT 化」が叫ばれ、IT 化の波に乗り遅れるとビジネスが成功しないような雰囲気さえ出ています。遅れないようにと IT 化を進めれば、次は「IT 化によるセキュリティに気をつけてください」と言われる。みなさんそんな経験はないですか?実際パソコンを導入しネットワークに接続すれば確かに情報漏えいなどのリスクが発生します。もし情報漏えい事件に巻き込まれてしまえば、せっかく今まで築いてきた信用も一瞬のうちに消えてしまいます。セキュリティ対策は他人に言われてやるものではなく(家に鍵をつけないと泥棒に入られますよと言われたから鍵をつけるっていう人はいないですよね)、自分でリスクを判断して自分で何が必要かを判断するのが一番だと思います。

JNSA は、自主的にリスクを考えどのようなセキュリティ対策をすればいいかを判断するための材料を提供してくれる場だと思っています。ぜひ JNSA を最大限に利用して、IT をビジネスチャンスに繋げましょう。

最後になりましたが、結構扱いやすい奴だと思いますので、みなさん仲良くしてやってください。



JNSA について

■会員の特典

- 1. 各種部会、ワーキンググループ・勉強会への参加
- 2. セキュリティセミナーへの会員料金での参加および 主催カンファレンスへの招待
- 3. 発行書籍・冊子の配布
- 4. JNSA 会報の配布 (年 3 回予定)
- 5. メーリングリスト及び Web での情報提供
- 6. 活動成果の配布
- 7. イベント出展の際のパンフレット配付
- 8. 人的ネットワーク拡大の機会提供
- 9. 調査研究プロジェクトへの参画

お問い合せ

特定非営利活動法人

日本ネットワークセキュリティ協会 事務局

〒 105-0003 東京都港区西新橋 1-22-12 JC ビル 3F

TEL: 03-3519-6440
TEL: 03-3519-6441
E-Mail: sec@jnsa.org

URL: http://www.jnsa.org/

西日本支部

〒 532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島 5-14-10 カトキチ新大阪ビル (株) ディアイティ内

TEL: 06-6886-5540

入会方法

Web の入会申込フォームにて Web からお申し込み、または、書面の入会申込書を FAX・郵送にてお送り下さい。折り返し事務局より入会に関する御連絡をいたします。

JNSA Press vol.26

2009 年 8 月 25 日発行 ©2009 Japan Network Security Association

発行所

特定非営利活動法人 日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA) E-Mail: sec@jnsa.org URL: http://www.jnsa.org/



プリンテックス株式会社



NPO 日本ネットワークセキュリティ協会 Japan Network Security Association

〒105-0003 東京都港区西新橋1-22-12 JCビル 3F TEL 03-3519-6440 FAX 03-3519-6441 E-mail: sec@jnsa.org URL: http://www.jnsa.org/

西日本支部

〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5-14-10 カトキチ新大阪ビル (株) ディアイティ内 TEL 06-6886-5540